

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月27日

【事業年度】 第70期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

【会社名】 不二ラテックス株式会社

【英訳名】 FUJI LATEX CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 伊藤 研 二

【本店の所在の場所】 東京都千代田区神田錦町三丁目19番地 1

【電話番号】 03(3293)5681(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 執行役員 財務部長 畑 山 幹 男

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田錦町三丁目19番地 1

【電話番号】 03(3293)5686

【事務連絡者氏名】 財務部課長 岡 本 和 大

【縦覧に供する場所】 株式会社 東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

## (1) 最近5連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	6,411,571	6,709,305	6,908,460	7,230,187	7,927,238
経常利益 (千円)	325,232	166,199	569,598	507,264	563,872
親会社株主に帰属する 当期純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失( ) (千円)	163,142	159,670	406,465	392,521	91,832
包括利益 (千円)	190,054	107,244	375,457	424,180	138,265
純資産額 (千円)	2,251,706	2,125,684	2,498,798	2,858,434	2,931,240
総資産額 (千円)	8,730,766	8,201,184	8,577,400	9,512,882	10,581,200
1株当たり純資産額 (円)	177.06	167.19	196.65	2,250.18	2,308.64
1株当たり当期純利益 又は当期純損失( ) (円)	12.83	12.56	31.98	308.93	72.30
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	25.8	25.9	29.1	30.0	27.7
自己資本利益率 (%)	7.4		17.6	14.7	3.2
株価収益率 (倍)	12.6		8.5	8.7	41.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	492,710	560,419	746,875	303,799	858,829
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	155,853	94,722	145,587	1,019,114	1,359,304
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	55,642	617,169	625,660	710,450	495,543
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	1,442,633	1,301,340	1,272,145	1,257,442	1,255,114
従業員数 [ほか、平均臨時 雇用人員] (名)	274 [86]	263 [94]	277 [96]	290 [95]	301 [98]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を記載しております。

4 第67期の自己資本利益率及び株価収益率は、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しているため記載しておりません。

5 平成29年10月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。第69期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

## (2) 提出会社の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高 (千円)	6,305,403	6,600,592	6,821,504	7,147,102	7,828,054
経常利益 (千円)	302,561	155,768	549,852	492,011	545,402
当期純利益又は 当期純損失( ) (千円)	146,640	167,110	396,192	382,243	81,226
資本金 (千円)	643,099	643,099	643,099	643,099	643,099
発行済株式総数 (株)	12,861,992	12,861,992	12,861,992	12,861,992	1,286,199
純資産額 (千円)	2,312,664	2,165,619	2,575,369	2,912,157	2,957,531
総資産額 (千円)	8,741,116	8,183,698	8,538,980	9,487,667	10,554,054
1株当たり純資産額 (円)	181.85	170.33	202.67	2,292.47	2,329.35
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	5.00 ( )	( )	5.00 ( )	5.00 ( )	50.00 ( )
1株当たり当期純利益 又は当期純損失( ) (円)	11.53	13.14	31.17	300.83	63.95
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	26.5	26.5	30.2	30.7	28.0
自己資本利益率 (%)	6.5		16.7	13.9	2.8
株価収益率 (倍)	14.0		8.7	8.9	46.9
配当性向 (%)	43.4		16.0	16.6	78.2
従業員数 [ほか、平均臨時 雇用人員] (名)	267 [85]	255 [92]	271 [94]	283 [93]	296 [96]

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。  
3 従業員数は、就業人員数を記載しております。  
4 第67期の自己資本利益率及び株価収益率は、当期純損失を計上しているため記載しておりません。  
5 第67期の配当性向は、配当を行っていないため記載しておりません。  
6 平成29年10月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。第69期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

## 2 【沿革】

昭和24年3月	株式会社日本ラテックス工業所を葛飾区本田川端町(現在の葛飾区東立石)に設立し、葛飾工場としてコンドームの製造開始。
昭和36年7月	株式会社日本ラテックス工業所より不二ラテックス株式会社に商号変更。
昭和40年12月	栃木工場(栃木県栃木市)を設置。
昭和45年12月	ロニーベンディング産業株式会社(現・不二ライフ株式会社)を栃木県栃木市に設立し、医療用具の販売開始(現・連結子会社)。
昭和47年8月	本社(東京都千代田区)を移転。
昭和49年1月	フジ化工株式会社を吸収合併、真岡工場(栃木県真岡市)を設置し、ゴム手袋の製造を継承。
昭和50年4月	名古屋営業所を設置。
昭和52年11月	子宮内避妊器具(I・U・D)の製造開始。
昭和55年1月	分娩介助管(オバタメトロ)の製造開始。
昭和55年9月	社団法人日本証券業協会(東京地区協会)の店頭登録銘柄に指定。
昭和55年10月	不二精器株式会社(現・当社と合併)を東京都千代田区に設立し、ショックアブソーバ(緩衝器)の販売開始。
昭和56年4月	福岡営業所を設置。
昭和56年5月	不二精器株式会社は新栃木工場(栃木県栃木市)を設置し、ショックアブソーバの開発、製造開始。
昭和57年11月	本社新社屋完成。
昭和58年7月	不二精器株式会社は沼和田工場(栃木県栃木市)を設置し、ロータリーダンパーの開発、製造開始。
平成4年8月	日本初のブランドコンドーム(ミチコ・ロンドン)発売。
平成7年7月	栃木工場においてISO9002認証取得。
平成10年1月	不二精器株式会社ISO9001認証取得。
平成11年12月	食品用包材発売。
平成12年9月	株式会社サークルラバーを吸収合併。真岡工場でゴム風船の印刷加工を開始。
平成13年4月	不二精器株式会社は新栃木工場と沼和田工場を併合し、新たに現地に新栃木工場(栃木県栃木市)を設置。
平成14年4月	不二精器株式会社を吸収合併。
平成15年8月	栃木工場においてISO9002から9001へ移行。
平成16年1月	新栃木工場においてISO14001認証取得。
平成16年7月	栃木工場においてISO13485認証取得。
平成16年9月	中国で貿易業務を行うFUJI LATEX SHANGHAI CO.,LTD.(現・連結子会社)を設立。
平成16年12月	株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成17年4月	栃木工場においてISO14001 認証取得。
平成17年6月	新栃木工場増築完成、翌7月操業開始。
平成17年9月	"震度7"対応の不動王シリーズ(家具転倒防止器具)の販売を開始。
平成18年10月	真岡工場(うち医療機器関連)においてISO13485及びISO9001の拡張。
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に株式を上場。
平成22年10月	大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。
平成25年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。
平成26年4月	日本初の新素材IR製コンドーム「SKYN」発売。
平成28年9月	緩衝器増産のため新栃木工場を増築。
平成28年12月	ドイツ代表事務所を設置。

### 3 【事業の内容】

当社の企業集団は、当社、子会社2社で構成され、主にゴム製品及び精密機器等の製造・販売及びそれらに付帯する事業を行っております。

当社グループの事業に係わる位置づけ及びセグメントの関連は、次のとおりであります。

また、当社グループの事業は、セグメントと同一の区分であります。

#### (1) 医療機器事業

当社は、医療機器等のゴム製品の製造・販売を行っております。

不二ライフ(株)は、主に当社製品(コンドム)の販売事業を行っております。

#### (2) 精密機器事業

当社は、精密機器(主に緩衝器)の製造・販売を行っております。

FUJI LATEX SHANGHAI CO., LTD. は、主に緩衝器の輸出入及び中国国内での販売を行っております。

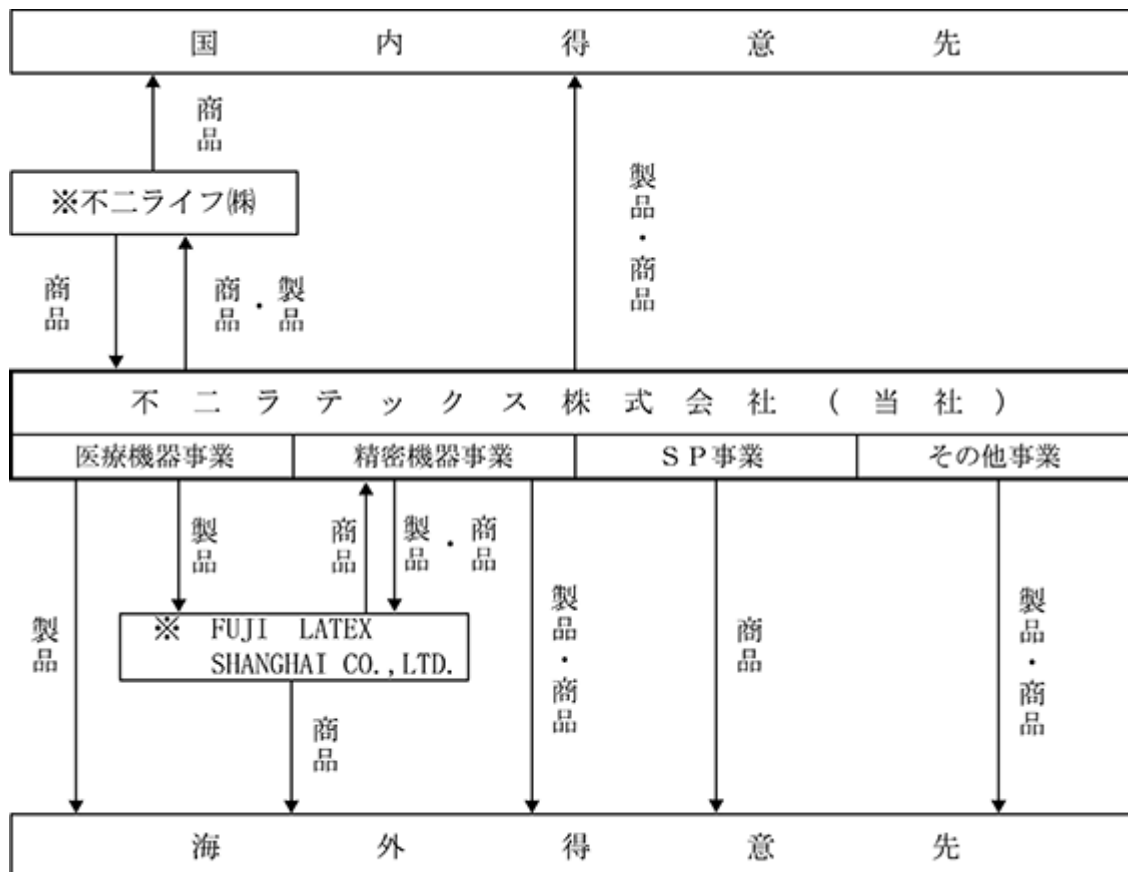
#### (3) SP事業

当社が風船及び販売促進用品等の販売を行っております。

#### (4) その他

当社が食容器等の製造・販売を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



※は連結子会社

#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 不二ライフ(株)	東京都千代田区	38,000千円	医療機器事業	100.00	当社製品の販売、当社役員の兼任2名
FUJII LATEX SHANGHAI CO.,LTD.	中国上海市	300千USドル	精密機器事業	100.00	当社製品の販売、当社役員の兼任2名

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。  
2 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

#### 5 【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
医療機器事業	140[47]
精密機器事業	137[46]
S P 事業	4[ 1]
その他	5[ 3]
全社(共通)	15[ 1]
合計	301[98]

- (注) 従業員数は就業人員数(当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時従業員数は[ ]内に年間平均雇用人員を外数で記載しております。なお、臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。

##### (2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
296[96]	39.8	13.1	4,969,521

セグメントの名称	従業員数(名)
医療機器事業	138[46]
精密機器事業	134[45]
S P 事業	4[ 1]
その他	5[ 3]
全社(共通)	15[ 1]
合計	296[96]

- (注) 1 従業員数は就業人員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時従業員数は[ ]内に年間平均雇用人員を外数で記載しております。なお、臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。  
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

##### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係については円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社は、健康・創造・志の三つの思いを調和させ、「世界の人々の健康と豊かな暮らしに貢献し、人々に喜ばれ、信頼される企業になる」を経営理念のひとつとして掲げています。また、豊かさの追求、信用の確立、イノベーションへの挑戦、継続的な成長と発展、世界 1・オンリーワン企業を目指す、を全ての活動につながる価値観として、さらに熱意、誠意、創意を行動原則として経営理念を支えます。そして、真に社会的ニーズに応える強固な経営基盤を構築することを目標にしています。

世界最高水準のゴムの薄膜化技術および新素材を基にコア技術を生かしたゴム製品、および独自の技術力とノウハウを駆使・凝縮した高機能かつバリエーション豊富な精密機器(緩衝器)製品を主力としております。創造性のある高品質・高付加価値で安全な、そして環境にも配慮した製品を市場に提供することによって社会的責任を果たし社会経済の発展に貢献できるものと確信しています。企業の継続的発展・企業価値の最大化を目指し実現して行くことで、株主、取引先、投資家、従業員、地域社会等の全ての人々の信頼と期待に応え、企業市民としての責任を果たしてまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

着実な事業拡大と効率的な事業運営により経営ビジョンを実現してまいります。「成長戦略」の推進を基本方針として、開発投資、設備投資、教育投資を核とした成長への投資を展開し収益力の強化を図るべく第3次新中期経営計画(平成30年3月期から平成32年3月期まで)を策定し推進しております。この中期経営計画における経営指標は、自己資本比率 40%、自己資本当期純利益率(ROE) 20.0%以上を目標とし企業価値の向上に努めてまいります。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

中期経営計画は、従来の実績と課題を念頭に置き長年培った技術力に磨きをかけると同時にユーザーの多様なニーズに応えられる新製品の開発を行い、海外も含めた新市場の開拓を柱とした営業基盤強化と、コスト意識を持って収益改善と財務体質強化を図り、強固な経営基盤の確立と持続的成長の実現を可能とする中長期的な方向性を明確にした計画としております。 Condominiumを取り巻く国内の市場環境は、消費の減少傾向が続き厳しい状況が続いておりますが、天然ゴムに代わる新素材(合成ゴム)製品や薄型製品などの高付加価値製品の市場シェアが高まるなど、大きく変化しております。一方、海外では高品質な日本製は競争力、ニーズとも高くOEM戦略により新たな市場開拓を継続してまいります。また、精密機器事業の主力製品であるショックアブソーバおよびロータリーダンパーは住宅設備、家電、自動車、産業用生産設備等の多岐に亘る市場に展開をしております。事業環境は経済状況や消費者ニーズの多様化、技術の進歩、製品の高度化にも大きく影響を受けますが、グローバルな視点で創造的かつハイレベルな製品開発を継続してまいります。

#### (4) 会社の対処すべき課題

消費者ニーズの多様化、技術革新、製造業拠点のグローバル化、安全や環境問題、ガバナンスへの取り組み強化等、当社を取り巻く中長期的事業環境につきましては、その基本的構図は大きく変わらないものと予想されます。

このような経営環境の下、中長期的な経営の基本方針に基づき、引き続き以下の課題に取り組んでまいります。

##### 技術力の強化、新製品の開発

新技術、新製品の開発は「ものづくり」に真摯に取り組む当社の生命線と考えております。医療機器事業の中核である Condominium市場では、新素材製品や薄さを追求した製品を中心に展開するなど、国内外の市場で環境変化が見られます。海外も含め新たなマーケットを創造すべく、新素材の開発、革新的製法への転換、斬新な発想に基づく製品開発、生産拠点の整備を進めてまいります。精密機器事業ではハイレベルでユニーク、かつコストパフォーマンスに優れた独自の製品を生み出す技術力をバックに、素材と機能性を睨んだ製品開発力・企画力をベースとして、ニッチトップ企業を目指してまいります。また、営業部門と技術開発部門の緊密な連携を通し、ユーザーのニーズを的確に先取りすることで製品開発に生かしていくことが重要と考えます。

生産工場においては、新製品開発と効率生産を可能にする最新設備の拡充を継続的に推進してまいります。加えて、永年培ってきた技術・技能を受け継ぐべき人材の育成に取り組んでまいります。特に、中核となる戦略製品群につきましては、革新的な生産技術の開発にチャレンジし、競合他社との差別化とリーディングカンパニーとしての揺るぎ無い地位を確立してまいります。

#### 新分野・新商材・新規事業への取り組み

将来に亘って持続的成長を遂げていくためには、当社の中核事業に加え、既存の技術力・営業基盤を生かし新たなコア事業の発掘、創出をしていく必要があります。戦略的M & Aの手法の活用や新規アライアンスを推進いたします。海外も含め積極的に新分野を開拓し、新規事業領域の拡大と成長分野への進出、事業基盤の構築に取り組んでまいります。

#### 生産性向上と効率性を追求した設備投資

生産革新によるQCDの追求を基本方針に、全社を挙げてコスト意識の徹底を図ります。同時にISOをベースとした管理体制の整備・強化に注力し、生販一体となった業務運営による生産性の向上と効率性を追求いたします。自動化生産設備の開発と積極的な導入を柱とした生産能力の拡大だけでなく、既存設備の整備・更新にあたっては抜本的な生産システムの再構築を視野に、不良率の低減を始めとしたローコスト運営に資するシステム化を図りつつ、投資効率の高い設備改革に取り組んでまいります。その一環として増設を展開していた新栃木工場は、フル稼働体制が構築できました。さらに真岡工場の新築・移転計画に着手し、新たな生産拠点の構築を目指してまいります。生産能力の増強と開発力の強化をさらに推進し、加えて生産拠点の防災対策のみならず実効性の高い事業継続計画の策定を進めてまいります。

#### 海外市場の開拓、ネットワークの拡大

医療機器事業、精密機器事業、SP事業とも新規の販売ネットワークの拡大に取り組んでまいります。中国に有する販売拠点や協力工場の拡充を進め、中国、欧米、東南アジアへの展開を図り高度な技術に裏付けされた当社ブランドを前面に掲げた多面的な取り組みを推進いたします。また、取引ウエイトが高くなる海外の顧客への対応力強化のために開設したドイツ代表事務所を中心に、営業および技術面のサポート体制を拡充いたします。

#### 人材の確保と育成

グローバル規模で成長を目指すうえでは組織体制の強化は不可欠であり、優れた人材の確保と育成は最重要課題のひとつとして認識しております。個々の能力とモチベーション、さらに新たな創意工夫を引き出すために働きがいのある職場環境と働き方の整備・拡充を行い、多様性に富んだ人材の採用と育成に注力いたします。

#### 財務体質の強化

製造業としてその根幹をなす生産設備および研究開発関連への投資資金を確保するために、収益の拡大を図ってまいります。さらに、課題のひとつに掲げた生産性向上と合理化の推進により総合的なものづくりシステムの改善を図り、受注から生産・出荷に至る一連の生産サイクルにおける適正棚卸資産の維持と製造・管理コストの削減に努めてまいります。同時に、自己資本の増強と有利子負債の削減により、経営環境の変化に柔軟に対応し持続的な成長が実現できる財務体質の強化・改善に努めてまいります。

#### 経営管理体制の整備と企業体質の強化

コーポレート・ガバナンスの強化とCSRへの取り組みを最重要課題のひとつと位置付け、経営統治機能の拡充に取り組んでまいります。また、コンプライアンスの徹底を始めとして透明性の高い経営を実現し、リスク管理、情報管理、情報開示体制等、内部統制システムの一層の整備と強化を進めてまいります。さらに、業容の拡大を支え成長戦略を推進する中で、変化に強く柔軟な対応が可能となるITシステムの整備・再構築を推進いたします。

#### 企業文化の醸成

当社のあるべき姿を見据え、従来から判断や行動の基本としている経営理念、価値観、行動指針を改めて体系化した「F U J I L A T E X W A Y」として明確に決めました。この企業ビジョンを全役職員で共有し、ひとりひとりが日々の業務活動の拠り所とし、様々な施策に積極的に取り組んでまいります。



## 2 【事業等のリスク】

当社グループの業績は、今後起こり得る様々な要因により大きな影響を受ける可能性があります。以下において、当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。

当社グループでは、当社グループでコントロールできない外部要因や事業上のリスクとして具体化する可能性は必ずしも高くないと見られる事項を含め、投資家の判断上、重要と考えられる事項については投資家に対する積極的な情報開示の観点から以下のとおり開示しております。

また、将来に関する事項の記載に関しては、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

なお、これらのリスク発生の可能性を踏まえた上で、その発生の予防及び発生した場合の対応に努力いたします。

### (知的財産におけるリスク)

当社グループは、開発する製品は多種、広範囲で、これに関連する知的財産権もまた複雑で多岐にわたっております。新製品の開発にあたっては、他者の権利を侵害しないように細心の注意を払っております。現在、第三者より知的財産権に関する侵害訴訟は提起されておりませんが、権利侵害等の理由により第三者から販売差し止め等の訴訟を提起される可能性があります。

このように、知的財産権における保護の失敗や不当な侵害は、当社グループの事業展開、業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

### (金利の上昇によるリスク)

当社グループは、相対的に有利子負債比率が高い水準にあります。金利の固定化、金利スワップ取引等による金利変動リスクの回避を視野にいれ、調達コストの低減を心がけておりますが、今後金利が上昇した場合には経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

### (資金調達に係るリスク)

当社グループは、金融機関と締結している借入に係る契約の一部に財務制限条項が付されており、同条項に抵触し、期限の利益を喪失した場合には当社の財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

### (原材料高のリスク)

当社グループ製品の主要原材料はいずれも値上げ圧力が強く、さらには天然ゴムの商品市況の影響による価格上昇も要因となり、製品原価に影響を及ぼす可能性があります。製品価格への転嫁は難しい状況下であり、合理化等の企業努力で値上げコストを吸収していく方針ですが、業績及び財務状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (原材料・部品の調達リスク)

当社グループは、合理的な価格で適切な品質及び量の原材料、部品等を調達しており、その調達はサプライヤーの供給する能力に依存しております。需要過剰の場合は十分な供給ができない可能性があり、価格が高騰する可能性があります。さらに、自然災害等によりサプライチェーンが被害を受けた場合は生産活動に影響を及ぼす可能性があります。調達に関連するリスクを回避するため、複数のサプライヤーを確保し緊密な関係構築に努めておりますが、供給不足等の問題が発生した場合は業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (災害発生のリスク)

当社グループの生産拠点は、栃木県に集中しており、予期せぬ地震や停電その他の災害が発生した場合には、開発、生産拠点等が大きな損害を受け、業績に影響を与える可能性があります。

### (国際的活動及び海外進出のリスク)

海外で事業を行う際には、以下のような特有のリスクがあります。

- ・ 政治的、経済的、法制的、社会情勢の変化に伴う影響
- ・ 為替レートの変動
- ・ 社員の採用と雇用維持及びマネジメント

国際的活動に当社グループが十分に対処できない場合、事業展開、業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(資産価値の変動、減損会計に対するリスク)

当社グループの保有する土地や有価証券などの資産価値低下等による減損処理が必要となった場合、業績及び財務状態に影響を及ぼす可能性があります。

(法的規制リスク)

当社グループの製造するコンドーム製品、メディカル製品等は基本的に薬機法の規制を受けており、これらの製造販売を行うためには、厚生労働大臣の承認、製造所については都道府県知事の許可を必要とします。許可可の未承認、また取り消し等により当社グループの事業展開、業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(製品の品質問題に関するリスク)

当社グループは品質管理には万全を期しておりますが、現在の技術・管理水準を超える品質に与える重大な問題等により、製造物責任に基づく製品の回収・損害賠償責任等に至るおそれがあり、当社グループの業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(情報システム・セキュリティに対するリスク)

当社グループは経営情報資産・ネットワーク設備等については、社外への漏えい及び不正アクセスを防ぐためにクラウド化、ファイアウォールなどのセキュリティの強化、社内啓蒙に努めております。しかし、予期しないコンピュータウイルスの発生・不正アクセスなどその規模によっては当社グループの業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績

当連結会計年度のわが国経済は、好調な企業業績や雇用・所得環境の改善を背景に個人消費は底堅く、設備投資は高水準の企業収益を背景に堅調に推移するなど、着実な回復基調が続きました。

世界経済については、米国は個人消費や設備投資が増加し、欧州は堅調な雇用環境を背景に、また中国は世界経済の回復を背景に輸出が増加するなど主要な先進国を中心に全体として堅調に推移いたしました。

このような事業環境のもと、より快適で豊かな暮らしに貢献できる製品造りをコンセプトに、お客様の多様なニーズに迅速・的確に対応するため、新技術・新製品開発へ積極的に取り組んでまいりました。また、生産能力の向上と生産体制の効率化を狙い、最新の生産設備の増設と拡充により増築を展開した新栃木工場はフル稼働が継続し、収益に大きく寄与いたしました。継続的な生産能力の強化により増産体制の構築と生産性向上が実現いたしました。さらに、総人員の圧縮と適正配置、在庫管理の徹底による削減と適正数量確保、間接費用の継続的削減活動の展開など、生産体制の合理化と業務の効率化を継続して推進し、企業体質の強化と強固な事業基盤の構築に努めてまいりました。なお、これらの実現に向けた新たな生産体制の構築を展望し、一部工場の新築・移転計画に着手いたしました。

医療機器事業の展開する主力のコンドームについては、国内市場環境は依然として厳しい状況が続くものの、海外市場においては継続的かつ安定的な受注が確保できました。精密機器事業においては、国内外の製造関連企業を中心とした顧客ニーズに対応すべく、ハイレベルな製品開発と積極的な提案営業を展開いたしました。また、生産体制強化を狙いとした工場増設により生産設備の稼働も安定し、業績向上に大きく寄与いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高は、79億2千7百万円と前年同期と比べ6億9千7百万円(9.6%)の増加となりました。

また、利益面につきましては、価格競争激化、新製品販売に向けた販促費投入、設備導入による減価償却費負担や在庫評価減等の利益圧迫要因の一方、増収増産効果に加え、生産合理化と諸経費の節減に努めた結果、営業利益は6億4千8百万円と前年同期と比べ9千8百万円(17.8%)の増益、経常利益は5億6千3百万円と前年同期と比べ5千6百万円(11.2%)の増益となりました。しかしながら、一部事業用資産について減損損失4億9百万円の特別損失を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は9千1百万円と前年同期と比べ3億円(76.6%)の減益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。なお、セグメント損益は、営業利益または営業損失に基づいております。

## 医療機器事業

主力のコンドームは、国内市場においては主要な販売チャネルとしての大型小売店・ドラッグストア・コンビニエンスストアを中心に販路開拓に注力いたしました。加えて継続的にWeb広告や販促企画を含めたネット販売への取り組みを強化、推進すると同時に、ドラッグストア、量販店とのタイアップ企画や販促キャンペーンへの展開、SNSを媒体とした販促活動にも取り組みシェア拡大を推進いたしました。また、安定生産と増産に向けて継続的に設備の更新、整備に取り組みました。

国内市場では依然として消費の減少傾向、価格の2極化、加えて天然ゴムに代わる新素材製品のシェア上昇傾向も続きました。天然ゴム素材製品を主体とする当社は厳しい展開を余儀なくされましたが、新素材コンドームSKYNに新商品を投入しラインナップを充実させた結果、増収となりました。また、輸出については、日本製高品質をポイントに継続的な営業活動と生産体制構築により受注は継続的・安定的に確保することができました。冷却商品は定番化し売上、利益とも前年の水準を維持いたしました。

メディカル製品については、医療現場での感染防止意識の高まりやアレルギーフリー素材製品の認知度の向上につれて、超音波診断装置等のプローブカバー(感染予防製品)、内視鏡用の医療バルーンを中心として引き続き堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は21億9千4百万円と前年同期と比べ9千6百万円(4.6%)の増加となりました。

セグメント損益は、増産・増収効果は認められたものの、製造ライン改造途上による稼働率の低下や減価償却費負担、不良在庫の処分等により、9千5百万円の損失(前年同期は2千1百万円の損失)となりました。

## 精密機器事業

主力のショックアブソーバおよびロータリーダンパーは、景気回復に伴い国内市場の受注は引き続き堅調に推移いたしました。ユーザー評価の高い主力製品の小型ショックアブソーバおよび小型ロータリーダンパーが、製品バリエーション強化と性能面の進化により、売上と利益に安定的に寄与いたしました。主要な市場として位置付け、開拓を継続している住宅設備関連は、住宅着工件数の減少があったものの新規採用の増加等により安定的な売上を確保できました。半導体、液晶等の製造設備関連は中国での需要が拡大し、一般産業用生産設備向けショックアブソーバは大幅な受注増となりました。また、家電、複合機関連、自動車関連の分野でも受注は堅調に推移いたしました。一方、輸出は新たな海外からのオファーが具体化したものの、当社の既存大手取引先の生産調整等が続き前年を下回る実績となりました。

利益面については、増収増産効果によるコスト低減に加え、従来から推進している製造ラインの全自動化・半自動化をベースにした増設が生産効率化に大きく寄与したことで原価低減が実現いたしました。また、人員の適正配置を含めた生産効率化と製造経費の低減、販売費節減への継続的取り組みを行いコスト圧迫要因を吸収いたしました。

この結果、売上高は51億円と前年同期と比べ5億8千1百万円(12.9%)の増加となりました。

セグメント利益は、11億3千万円と前年同期と比べ2億6百万円(22.4%)の増益となりました。

売上高、セグメント利益とも過去最高を達成することとなりました。

## SP事業

主力のゴム風船が中心となる販促用品市場はニーズの多様化が続き、景気が回復基調にある中、広告販促活動やイベント等も徐々に拡大し、加えて従来から継続している提案営業による新企画商品や主力のゴム風船およびフィルムバルーンの受注も徐々に回復し売上に寄与いたしました。売上、利益とも回復基調にて推移いたしました。物流の見直しにより間接コストを削減したものの、他社競合等により採算面が厳しく利益を圧迫し減益となりました。

この結果、売上高は5億9百万円と前年同期と比べ6百万円(1.2%)の増加となりました。

セグメント利益は、2千1百万円と前年同期と比べ1百万円(7.2%)の減益となりました。

## その他

売上高は1億2千1百万円と前年同期と比べ1千2百万円(11.6%)の増加となりました。

セグメント利益は、1千7百万円と前年同期と比べ1百万円(12.9%)の増益となりました。

生産、仕入、受注及び販売の実績は、次のとおりであります。

生産実績

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
医療機器事業	2,346,569	12.2
精密機器事業	4,969,154	14.8
その他	105,099	16.9
計	7,420,823	14.0

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2 金額は、販売価格によっております。  
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

仕入実績

セグメントの名称	仕入高(千円)	前年同期比(%)
医療機器事業	270,781	26.2
精密機器事業	94,080	20.6
S P事業	298,478	1.1
その他	17,381	133.6
計	680,721	7.1

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2 金額は、仕入価格によっております。  
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

受注実績

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
精密機器事業	4,169,073	9.5	554,297	10.3
計	4,169,073	9.5	554,297	10.3

- (注) 1 精密機器事業の一部についてのみ受注生産を行っており、他の精密機器事業及び他のセグメント事業については見込み生産を行っております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
医療機器事業	2,194,404	4.6
精密機器事業	5,100,891	12.9
S P事業	509,980	1.2
その他	121,963	11.6
計	7,927,238	9.6

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
ガイドー株式会社	857,430	11.9	993,024	12.5

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態

(流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は、59億2千9百万円で前年比3億8千3百万円増加しました。主な増加要因は、受取手形及び売掛金の1億9千万円、仕掛品の8千6百万円、原材料及び貯蔵品の8千8百万円などであり、これは主に精密機器事業の売上高の増加に伴う増加であります。

(固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は、46億4千2百万円で前年比6億8千万円増加しました。主な要因は、土地の6億6千8百万円の増加や建設仮勘定の8千7百万円の増加、および建物及び構築物の9千6百万円の減少などであり、これは主に栃木千塚工場の新設に伴う増加であります。

(流動負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は、44億8千6百万円で前年比3億2千万円増加しました。主な増加要因は、精密機器事業の仕入れに伴う電子記録債務の2億4千9百万円、短期借入金の4億円、1年内返済予定の長期借入金の9千万円、未払法人税等の8千8百万円などであり、主な減少要因は、1年内償還予定の社債の4億2千万円、設備関係電子記録債務の1億9千万円などであり、

(固定負債)

当連結会計年度末における固定負債の残高は、31億6千3百万円で前年比6億7千4百万円増加しました。主な増加要因は、社債の2億円、長期借入金の4億6千9百万円などであり、これは主に栃木千塚工場の新設に伴う資金調達による増加であります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は、29億3千1百万円で前年比7千2百万円増加しました。主な増加要因は、利益剰余金の2千8百万円、その他有価証券評価差額金の2千9百万円などであり、この結果、自己資本比率は27.7%となりました。

(3) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、12億5千5百万円と前年同期と比べ2百万円(0.2%)の減少となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動により得られた資金は、前年同期と比べ5億5千5百万円(182.7%)増加し、8億5千8百万円となりました。

資金の主な増加要因は税金等調整前当期純利益の1億5千1百万円、減価償却費の3億9千2百万円、減損損失の4億9百万円、仕入債務の増加1億8千9百万円などであり、主な減少要因は売上債権の増加2億2千5百万円、たな卸資産の増加2億3千6百万円などであり、

投資活動により支出した資金は前年同期と比べ3億4千万円(33.4%)増加し、13億5千9百万円となりました。

資金の主な減少要因は栃木千塚工場の新設を含めた医療機器事業や精密機器事業における有形固定資産の取得13億3千9百万円であり、

財務活動により得られた資金は前年同期と比べ2億1千4百万円(30.2%)減少し、4億9千5百万円となりました。

資金の主な増加要因は短期借入れによる収入4億円、長期借入れによる収入9億8千7百万円、社債の発行による収入2億円などであり、主な減少要因は長期借入金の返済4億2千6百万円、社債の償還4億2千万円などであり、

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、主として営業活動から得られるキャッシュ・フロー及び金融機関からの借入を資金の源泉としております。運転資金等の短期の資金需要につきましては自己資金に加え、30億円のコミットメントライン契約により機動的な調達を確保しております。設備投資等の長期資金需要につきましては、資金需要の期間及び目的を勘案し、金融機関からの長期借入やリース等の選択肢から最適な調達方法を検討して対応しております。

#### 4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 5 【研究開発活動】

当社グループは、「健康と豊かさに貢献する」ために時代をリードする製品造りを基本理念とし、当連結会計年度の研究開発活動は、栃木、新栃木、真岡工場の研究部署においてそれぞれの製品群につき新製品の試験的製作、あるいは新技術の研究等に取り組みつつ次期展開にも備えております。

当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費は2億7千5百万円であります。

セグメントごとの研究開発活動を示すと次のとおりであります。

##### (医療機器事業)

当社が中心となってコンドームの改良から製品の開発及び新しい医療機器の開発研究、さらに生産技術の開発に至るまで行っております。当事業に係る研究開発費は、7千9百万円であります。

##### (精密機器事業)

当社が中心となってショックアブソーバ(緩衝器)のソフト&サイレンスを実現する製品の開発、さらに生産技術の開発に至るまで行っております。当事業に係る研究開発費は、1億5千3百万円であります。

##### (全社共通)

当社が中心となって新製品の研究開発を行っております。当事業に係る研究開発費は、4千1百万円でありま

す。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、医療機器事業及び精密機器事業等を中心に生産設備の増強、研究開発機能の充実・強化などを目的とした設備投資を継続的に実施しております。なお、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

当連結会計年度の設備投資の総額は14億2千3百万円であり、セグメントごとの主要な設備投資について示すと、次のとおりであります。

##### (医療機器事業)

当連結会計年度の主な設備投資は、当社において栃木千塚工場建設用地の購入およびコンドーム生産のための自動機設備を中心に7億5千8百万円の設備投資を実施しております。

また、当連結会計年度において減損損失4億9百万円を計上しております。減損損失の内容については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結損益計算書関係) 5 減損損失」に記載のとおりであります。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

##### (精密機器事業)

当連結会計年度の主な設備投資は、当社において緩衝器増産のための生産設備等を中心に5億7千5百万円の設備投資を実施しております。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

##### (S P事業)

当連結会計年度の主な設備投資は、当社において栃木千塚工場建設用地の購入のため1千7百万円の設備投資を実施しております。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

##### (その他)

当連結会計年度の主な設備投資は、当社において栃木千塚工場建設用地の購入を中心に4千4百万円の設備投資を実施しております。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

##### (全社共通)

当連結会計年度の主な設備投資は、当社において本社建物の改修を中心に2千5百万円の設備投資を実施しております。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

## 2 【主要な設備の状況】

### (1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	工具器具 備品	合計	
栃木工場 (栃木県栃木市)	医療機器事業	生産設備	101,540	0	254,659 (17,381)	0	481	356,681	91 [31]
真岡工場 (栃木県真岡市)	医療機器事業 その他	生産設備	62,874	14,213	51,361 (8,149)		1,600	130,050	31 [17]
新栃木工場 (栃木県栃木市)	精密機器事業	生産設備	889,361	418,192	245,783 (8,071)	297,049	38,427	1,888,814	112 [43]
不二物流倉庫 (栃木県栃木市)	精密機器事業	倉庫等	1,172		200,015 (3,247)			201,187	
本社ビル (東京都千代田 区)	医療機器事業 精密機器事業 S P事業 その他 全社共通	販売業務 全社管理業務	225,127		435,109 (261)		24,466	684,703	50 [3]

- (注) 1 金額は有形固定資産の帳簿価額であり、建設仮勘定を含んでおりません。  
2 帳簿価額は減損損失計上後の金額であります。  
3 栃木工場において4,580㎡を賃借しており、年間賃借料は5,829千円であります。  
4 生産設備及びその他設備における休止中の設備はありません。  
5 従業員数の[ ]は、臨時従業員数を外書きしております。

### (2) 国内子会社

主要な設備はありません。

### (3) 在外子会社

主要な設備はありません。

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

### (1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
提出 会社	栃木千塚 工場 (栃木県 栃木市)	医療機器 事業 精密機器 事業	メディ カル製品 および緩 衝器の製 造設備	2,461	710	借入金	平成30年 2月	平成30年 11月	生産能力 20%増

(注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。



## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,000,000
計	3,000,000

(注) 平成29年6月28日開催の第69回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で当社普通株式10株を1株とする株式併合に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は27,000,000株減少し、3,000,000株となっております。

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,286,199	1,286,199	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	1,286,199	1,286,199		

(注) 1 平成29年6月28日開催の第69回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で当社普通株式10株を1株に併合いたしました。これにより、発行済株式総数は11,575,793株減少し、1,286,199株となっております。  
2 平成29年6月28日開催の第69回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年10月1日 (注)	11,575,793	1,286,199		643,099		248,362

(注) 株式併合(10:1)によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		4	17	34	11		956	1,022	
所有株式数(単元)		505	135	1,207	693		10,099	12,639	22,299
所有株式数の割合(%)		4.00	1.07	9.55	5.48		79.90	100	

- (注) 1 自己株式16,518株は「個人その他」に165単元及び「単元未満株式の状況」に18株含めて記載しております。
- 2 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が2単元含まれております。
- 3 平成29年6月28日開催の第69回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
岡本和子	埼玉県春日部市	161	12.76
岡本昌大	東京都豊島区	142	11.23
岡本和大	埼玉県春日部市	130	10.30
岡本明大	東京都荒川区	111	8.82
不二ラテックス共栄会	東京都千代田区神田錦町3-19-1	59	4.65
(株)りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2-2-1	40	3.15
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR: FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内2-7-1)	35	2.76
岡本正敏	東京都港区	33	2.61
森貴義	東京都新宿区	30	2.36
(株)大木	東京都文京区音羽2-1-4	27	2.17
計		772	60.80

- (注) 1 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日に株式会社三菱UFJ銀行に商号変更されております。
- 2 平成29年6月28日開催の第69回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で当社普通株式10株を1株に併合いたしました。これにより、発行済株式総数は11,575,793株減少し、1,286,199株となっております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 16,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,247,400	12,474	
単元未満株式	普通株式 22,299		
発行済株式総数	1,286,199		
総株主の議決権		12,474	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が18株含まれております。
- 3 平成29年6月28日開催の第69回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で当社普通株式10株を1株に併合いたしました。これにより、発行済株式総数は11,575,793株減少し、1,286,199株となっております。
- 4 平成29年6月28日開催の第69回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 不二ラテックス株式会社	東京都千代田区神田錦町 3 - 19 - 1	16,500		16,500	1.28
計		16,500		16,500	1.28

## 2 【自己株式の取得等の状況】

### 【株式の種類等】

会社法第155条第7号による普通株式の取得及び会社法第155条第9号による普通株式の取得

#### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

#### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成29年10月19日)での決議状況 (取得日 平成29年10月19日)	162	520,674
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	162	520,674
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		

- (注) 1 平成29年10月1日付の株式併合により生じた1株に満たない端数の処理につき、会社法第235条第2項、第234条第4項及び第5項の規定に基づく自己株式の買取りを行ったものです。  
2 買取単価は、買取日の株式会社東京証券取引所における当社株式の終値であります。

#### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	3,414	1,424,142
当期間における取得自己株式		

- (注) 1 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。  
2 平成29年10月1日付で当社普通株式10株を1株とする株式併合を実施いたしました。当事業年度における取得自己株式3,414株の内訳は、株式併合前3,270株、株式併合後144株であります。

#### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(株式併合による減少)	145,913			
保有自己株式数	16,518		16,518	

- (注) 1 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。  
2 平成29年10月1日付で当社普通株式10株を1株とする株式併合を実施いたしました。

### 3 【配当政策】

当社は株主の皆様に対する利益を最重要経営課題のひとつとして位置付け、企業体質の一層の充実・強化と将来に向けた積極的な事業展開を推進し1株当たり利益の継続的な増加に努めます。この方針のもと、配当金につきましては業績に応じ、また適正な内部留保の充実、新規投資計画を考慮しつつ安定的な配当の継続に努めてまいります。

当社の配当につきましては、期末配当の年1回を基本的な方針とし、配当の決定機関は取締役会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、当事業年度の業績を勘案し、当事業年度末日（平成30年3月31日）を基準とする配当金を1株につき50円（株式併合前5円）としております。

内部留保につきましては、事業計画に基づく生産設備増強のための資金に充当するとともに経営体質の強化並びに将来の事業展開に向け活用してまいります。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成30年5月15日 取締役会決議	63,484	50.00

### 4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	199	366	424	324	333 (3,350)
最低(円)	136	146	197	234	249 (2,790)

(注) 1 最高・最低株価は、平成25年7月15日以前は大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであり、平成25年7月16日以降は東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

2 平成29年10月1日付で当社普通株式10株を1株とする株式併合を実施したため、第70期の株価については当該株式併合前の最高、最低株価を記載し、( )内に当該株式併合後の最高・最低株価を記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	3,250	3,250	2,970	3,350	3,055	3,075
最低(円)	3,105	2,790	2,830	2,946	2,802	2,811

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

## 5 【役員の状況】

男性8名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 取締役社長		伊藤 研二	昭和25年 1月26日	昭和48年3月 当社入社 昭和56年6月 不二精器㈱入社 平成8年5月 不二精器㈱取締役技術部長 平成14年4月 取締役不二精器事業部新栃木工場 長兼新栃木製造部長 平成16年4月 取締役不二精器事業部長兼不二精 器事業部新栃木工場長 平成17年4月 取締役執行役員精密機器事業部長 平成17年6月 常務取締役執行役員精密機器事業 部長 平成18年4月 常務取締役執行役員営業本部長 平成21年6月 専務取締役執行役員管理本部長兼 研究開発部長 平成22年5月 不二ライフ㈱代表取締役社長 平成23年6月 代表取締役社長執行役員(現) 平成23年12月 FUJII LATEX SHANGHAI CO.,LTD. 董事長(現)	(注) 2	4,582
代表取締役 専務取締役	経営統轄本部長 兼 医療機器本部長 兼 研究開発部長 兼 メディカル営業部 長	岡本 昌大	昭和51年 12月5日	平成11年4月 才カモト㈱入社 平成14年4月 当社入社 平成18年10月 営業本部副本部長兼S P事業部長 平成19年6月 取締役執行役員営業本部副本部長 兼S P事業部長 平成21年4月 取締役執行役員営業本部長兼海外 事業部長 平成21年6月 常務取締役執行役員営業本部長兼 海外事業部長 平成22年4月 常務取締役執行役員営業本部長兼 ヘルスケア事業部長 平成23年5月 不二ライフ㈱代表取締役(現) 平成23年6月 専務取締役執行役員経営統轄本部 長兼医療機器事業部長兼研究開発 部長 平成24年4月 代表取締役専務執行役員経営統轄 本部長兼医療機器事業部長 平成26年4月 代表取締役専務執行役員経営統轄 本部長兼医療機器本部長兼研究開 発部長 平成30年4月 代表取締役専務執行役員経営統轄 本部長兼医療機器本部長兼研究開 発部長兼メディカル営業部長(現)	(注) 2	142,550
常務取締役	経営統轄副本部長 兼 管理本部長 兼 財務部長 兼 総務部長 兼 内部統制推進室長 兼 法務室長	畑山 幹男	昭和30年 10月1日	平成17年4月 ㈱りそな銀行退職 平成17年4月 当社入社管理本部財務部長 平成17年6月 執行役員管理本部財務部長 平成19年6月 取締役執行役員管理本部副本部長 兼財務部長兼内部統制推進室長 平成24年4月 常務取締役執行役員財務部長兼内 部統制推進室長兼基幹システム構 築室長 平成24年6月 常務取締役執行役員財務部長兼総 務部長兼内部統制推進室長兼基幹 システム構築室長兼法務室長 平成26年4月 常務取締役執行役員経営統轄副本 部長兼管理本部長兼財務部長兼総 務部長兼内部統制推進室長兼基幹 システム構築室長兼法務室長 平成28年10月 常務取締役執行役員経営統轄副本 部長兼管理本部長兼財務部長兼総 務部長兼内部統制推進室長兼法務 室長(現)	(注) 2	1,100

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	経営統轄副本部長 兼 海外営業部長	賀 長 信 吉	昭和31年 2月26日	昭和62年8月 平成17年4月 平成18年4月 平成19年4月 平成20年4月 平成21年6月 平成21年10月 平成27年4月 平成27年6月 平成30年4月	不二精器(株)入社 精密機器事業部新栃木工場技術部長 精密機器事業部新栃木副工場長兼 製造部長兼技術部長 精密機器事業部新栃木工場長兼製 造部長 精密機器事業部新栃木工場長兼製 造部長兼技術部長 執行役員営業本部精密機器事業部 新栃木工場長兼製造部長兼技術部 長 執行役員営業本部精密機器事業部 新栃木工場長兼製造部長兼技術部 長兼品質保証室長 執行役員精密機器本部長兼営業部 長 取締役執行役員経営統轄副本部長 兼精密機器本部長 取締役執行役員経営統轄副本部長 兼海外営業部長(現)	(注) 2	724
取締役	経営統轄副本部長 兼 精密機器本部長 兼 新栃木工場長	近 藤 安 弘	昭和39年 12月7日	昭和63年4月 平成7年6月 平成14年4月 平成19年4月 平成20年8月 平成21年4月 平成23年4月 平成27年4月 平成27年6月 平成30年4月 平成30年6月	カルソニック(株)入社 不二精器(株)入社 不二精器事業部新栃木工場製造部 製造課長 精密機器事業部新栃木工場技術部 次長 ヘルスケア事業部栃木工場製造部 次長 ヘルスケア事業部栃木工場副工場 長 経営統轄本部付次長 精密機器本部新栃木工場長 執行役員精密機器本部新栃木工場 長 執行役員精密機器本部長兼新栃木 工場長 取締役執行役員経営統轄副本部長 兼精密機器本部長兼新栃木工場長 (現)	(注) 2	1,577
取締役 (監査等委員)		柏 村 明 克	昭和27年 1月26日	昭和49年3月 平成14年6月 平成16年4月 平成17年6月 平成18年4月 平成19年4月 平成21年4月 平成24年6月 平成27年6月	当社入社 第一総務部長 総務部長 取締役執行役員総務部長 取締役執行役員管理本部副本部長 兼総務部長兼法務室長兼秘書室長 取締役執行役員管理本部長兼人事 部長兼法務室長 取締役執行役員総務部長兼法務室 長 常勤監査役 取締役(監査等委員)(現)	(注) 3	1,300
取締役 (監査等委員)		深 沢 岳 久	昭和44年 6月7日	平成9年4月 平成12年10月 平成27年6月	弁護士開業(現) 監査役 取締役(監査等委員)(現)	(注) 3	
取締役 (監査等委員)		辻 新 六	昭和23年 1月18日	平成6年4月 平成15年6月 平成20年3月 平成27年6月	流通科学大学情報学部経営情報学 科教授 監査役 流通科学大学退官 取締役(監査等委員)(現)	(注) 3	1,200
計							153,033

- (注) 1 取締役深沢岳久及び辻新六は、会社法施行規則第2条第3項第5号に規定する社外役員に該当する社外取締  
役であり独立役員であります。
- 2 監査等委員以外の取締役の任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る  
定時株主総会終結の時までであります。
- 3 監査等委員である取締役の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る  
定時株主総会終結の時までであります。
- 4 当社は監査等委員会設置会社であります。監査等委員会の体制は、次のとおりであります。  
委員長 柏村明克 委員 深沢岳久 委員 辻新六

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社では経営判断の迅速化を図りつつ、株主やその他のステークホルダーに対する経営の透明性を高めることをコーポレート・ガバナンスの目的としております。このような観点からタイムリーディスクロージャーを重視し、今後とも適時開示やホームページでのIR情報の提供、決算説明会等の充実に努めてまいります。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

・執行役員制の採用

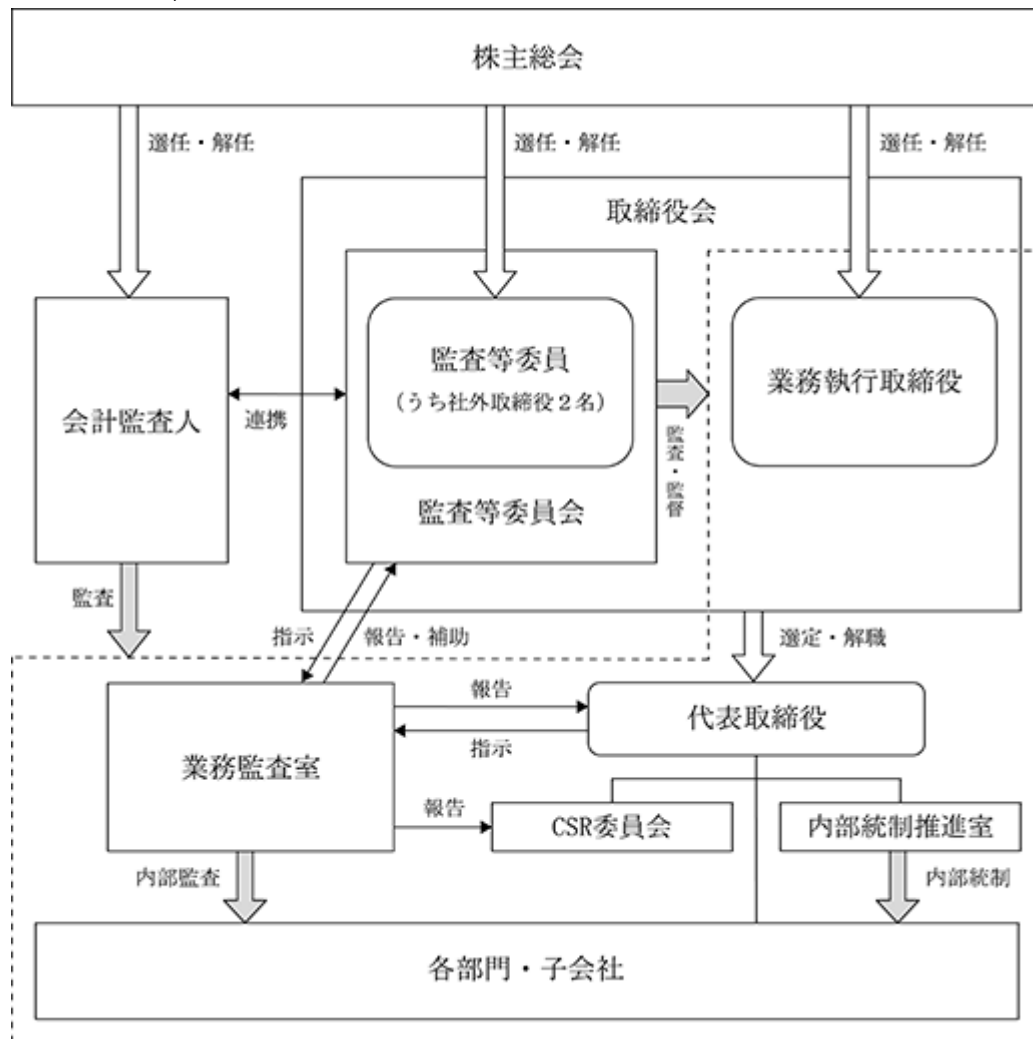
意思決定の迅速化及び業務執行上の責任体制を明確化するため、執行役員制を採用しております。この結果、業務執行取締役は5名、執行役員は6名（内取締役5名が兼務）の構成となっております。

・監査監督機能の強化

当社は、監査等委員会設置会社であります。監査等委員会は監査等委員である取締役3名で構成され、その内訳は常勤の監査等委員1名、社外取締役である監査等委員2名であり、透明性の向上・客観性の確保を図っております。

監査等委員会を毎月開催するとともに、監査等委員が取締役会を中心とした各種経営会議等に適宜出席し、業務執行の監督を行っております。社外取締役から第三者・客観的立場、法律の専門家的視点、学識経験者の視点で経営の意思決定に対して、適切なアドバイスを受けております。また、会計監査人である仰星監査法人とは定期的に監査上の留意点について意見交換を行っております。

( ガバナンス体制 )





・ 内部統制システムの整備の状況

(取締役・使用人の職務執行が法令および定款に適合することを確保するための体制)

全取締役、全使用人に法令・定款の遵守を徹底するため、CSR委員会を設置し、その下にコンプライアンス部会、危機管理部会、環境管理部会を設置しております。また、同委員会および各部会組成の趣旨に従い同委員会および各部会を適切に運営すると同時に、全取締役、全使用人が法令・定款および当社の経営理念を遵守して行動をとるための「行動規範」および「行動指針」を定めております。

CSR委員を選任した上で、各部署にCSR責任者を配置し総務部に事務局を設置しており、同事務局はCSRに関わる事項を企画・立案するとともに各社員からの報告相談窓口となり委員長、委員に報告を行っております。

万一CSRに関連する事態が発生した場合には、その内容・対処案が責任者、委員を通じ社長、取締役会、監査等委員会に報告される体制を構築しております。

また、使用人が法令もしくは定款上疑義ある行為等を発見した場合にそれを報告通報しても当該使用人に不利な扱いを行わない旨等を規定する「内部通報者保護規程」を制定しております。

(取締役の職務執行に係る情報の保存および管理に関する体制)

取締役の職務の執行に係る情報・文書の取り扱いは、当社社内規程及びそれに関する各管理マニュアルに従い適切に保存および管理の運用を実施し、必要に応じて運用状況の検証、各規程等の見直し等を行っております。

取締役は「文書管理規程」により、常時これらの文書等を閲覧できるものとしております。

(損失の危険の管理に関する規程その他の体制)

法令・定款違反その他の事由に基づき損失の危険のある業務執行行為や異常事態、緊急事態が発生・発見された場合は、直ちに危機管理部会を招集し、その内容およびそれがもたらす損失の程度等について直ちに検討・対応する体制を構築しております。

業務監査室は各部門の日常的な業務全般に亘り管理状況を監査する中で、法令・定款違反その他の事由に基づきリスク発生の危険のある業務執行行為が発生した場合はその内容、それがもたらすリスクの程度についてCSR事務局（危機発生時は危機管理部会事務局）に報告し検討を行い、必要に応じ取締役会、監査等委員会に報告する体制としております。また、取締役会はリスク管理体制を逐次見直し、問題点の把握と改善に努めております。

(取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制)

取締役会は月1回の定例取締役会および適宜臨時取締役会を開催し、取締役の職務執行が効率的に行われる体制を確保すると同時に、付議基準に該当する重要事項に関して迅速に的確な意思決定を行っております。

さらに、各部門の責任者および執行役員以上をもって構成する全社会議を毎月開催し、業務執行状況ならびに経営計画の進捗状況を確認・協議することで経営情報の共有を図り、その協議内容・指示に基づき各部門責任者は業務を展開する体制としております。また、経営統轄本部の副本部長以上を中心とした会議を毎週1回開催し、タイムリーな事案を経営トップに報告し、その対応方針等を協議し迅速・的確に業務を推進する体制を構築しております。

経営計画の管理については、経営理念を軸に毎年策定する年度計画および中期経営計画に基づき各業務執行部門において目標を設定し、各担当取締役・執行役員は施策・業務遂行体制を決定し、その遂行状況は全社会議をはじめとした各会議等にて定期的に報告を行っております。

(当社ならびに当社の子会社からなる企業集団に関する体制)

・ 当社子会社の取締役等の職務執行に係る事項の当社への報告に関する体制

年度経営計画、予算、決算等の一定事項について親会社と事前協議を行い、指示または承認を得るものとし、月次決算等の所定の事項については報告をする体制としております。

・ 当社子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

子会社の業務監査については、親会社が実施する体制としております。

・ 当社子会社の取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制

子会社の取締役や監査役に親会社から複数名を派遣し、子会社が親会社の経営方針に沿って適正に運営されていることを確認する体制としております。

- ・当社子会社の取締役・使用人の職務執行が法令および定款に適合することを確保するための体制  
コンプライアンスに関する問題、リスク管理に関する問題等は親会社が子会社を含めて管理する体制としております。
- ・その他当社ならびに当社の子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制  
子会社等の関係会社管理の担当部署として財務部内に関連事業課を置き、子会社を含む企業集団として業務の適正を確保するため、子会社経営者等と常に接点を持ち経営全般について協議を行っております。

(監査等委員会の職務を補助すべき取締役および使用人に関する事項)

監査等委員会の職務を補助すべき部署として業務監査室を設置し、兼務の使用人を1名以上配置するものとしております。

(前項の取締役および使用人の他の取締役(監査等委員である取締役を除く。)からの独立性に関する事項ならびに当該取締役および使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項)

当該使用人の任命等人事権に係る事項の決定には、監査等委員会と事前に十分な協議を行う等、他の取締役(監査等委員である取締役を除く。)からの独立性を確保するよう配慮を行う体制としております。

また、監査等委員より業務監査に必要な補助業務を求められた取締役および使用人は適切に対応できる体制としております。

(当社および当社子会社の取締役および使用人等が監査等委員会に報告をするための体制、その他の監査等委員会への報告に関する体制ならびに当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制)

当社および当社子会社の取締役および使用人は、監査等委員会の定めるところに従い、必要な報告および情報提供を行うこととしております。

監査等委員は、取締役会の他に、全社会議、その他の重要な会議に出席し、取締役および使用人から重要事項の報告を受けるものとしており、そのために事前に日程等を連絡し出席を依頼する体制としております。

また、次のような重大・緊急事由が発生した場合は、当社および当社子会社の取締役および使用人は遅滞なく監査等委員会に報告することとしております。

- ・当社及びグループ会社の信用面、業績面に重大な影響を及ぼす恐れのある法律上または財務上の問題
- ・法令・定款違反、不正行為で重大なもの
- ・コンプライアンス上の通報で重大なもの
- ・重大な被害を与えたもの、受けたもの、その恐れのあるもの

なお、上記の報告をした者は「内部通報者保護規程」により保護され、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けることのない体制としております。

(監査等委員の職務執行について生ずる費用の前払いまたは償還の手続きその他の職務執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する体制)

監査等委員がその職務の執行において、費用の前払い請求や費用の償還手続きをしたときは、請求にかかる費用または債務が当該職務執行に必要でないことを証明した場合を除き、速やかに処理するものとしております。

(その他の監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制)

監査等委員は、稟議書等業務執行に係る重要文書を閲覧し取締役および使用人に説明を求めることができ、さらに監査等委員は管理部門に協力を要請し、監査業務のサポートを求めることができる体制としております。

常勤の監査等委員1名、非常勤の社外取締役である監査等委員2名の計3名で構成する監査等委員会を毎月開催し、重要事項につき協議するほか、定期的に会計監査人との情報交換を実施し、特に財務上の問題点につき協議しております。

監査等委員は、社長、会計監査人、業務監査室、各事業部門、グループ各社の取締役等との情報交換に努め、連携を保ちながら監査の実効性を確保し監査業務の遂行を図っております。

(財務報告の信頼性を確保するための体制)

金融商品取引法第24条の4の4に規定される内部統制報告書の提出を適正に行うため、取締役社長直轄の内部統制推進室が財務報告に係る内部統制の仕組みを整備し、法令等への適合性と財務報告の信頼性を確保する体制を構築しております。

また、取締役社長直轄の業務監査室が内部統制活動の整備・運用状況を監査し、取締役社長に報告しております。

(反社会的勢力による被害を防止するための体制)

反社会的勢力による被害を防止するため、行動指針に「市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力、団体とは断固として対決するものとし、一切の関係を遮断します。また、これらの活動を助長するような行為を行いません。トラブルが発生した場合は企業を挙げて立ち向かいます。」と定め、全社的に取り組んでおります。

また、総務部を対応統括部署として不当要求防止責任者を設置し、反社会的勢力からの不当要求に屈しない体制を構築しております。

さらに、神田地区特殊暴力防止対策協議会および警視庁管内特殊暴力防止対策連合会に所属し、神田警察署、警視庁組織犯罪対策課と連携し、指導を受けるとともに情報の共有化を図っております。

・取締役（業務執行取締役等を除く。）との責任限定契約

監査等委員である社外取締役との間に会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。

・弁護士、会計監査人の状況

弁護士を社外取締役に選任しており、随時、法的な指導を受けております。また、仰星監査法人には監査等通常業務のほか経営上の課題についても独立性に反しない程度のアドバイスを受けております。

また、仰星監査法人との間に会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (監査等委員を除く) (社外取締役を除く)	85	85				5
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く)	14	14				1
社外役員	13	13				2

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社は役員の報酬等の額の決定に関する方針を定めており、その内容は株主総会が決定する報酬総額の限度内で、世間水準、経営内容(業績)、従業員給与等とのバランスを考慮して、取締役(監査等委員である取締役を除く。)については取締役会において決定し、監査等委員である取締役については監査等委員である取締役の協議により決定しております。

役員報酬の限度額については、平成27年6月26日付け第67回定時株主総会決議により、取締役(監査等委員である取締役を除く。)は年額3億円、監査等委員である取締役は年額4千万円としております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 11銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 351百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
フジモトHD(株)	178,579	86	取引関係等の円滑化のため
オカモト(株)	34,000	40	取引関係等の円滑化のため
(株)マツモトキヨシホールディングス	6,600	34	取引関係等の円滑化のため
(株)鳥羽洋行	15,730	33	取引関係等の円滑化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	126,561	25	財務活動の円滑化のため
明治ホールディングス(株)	2,599	24	取引関係等の円滑化のため
C Bグループマネジメント(株)	27,240	19	取引関係等の円滑化のため
(株)りそなホールディングス	30,000	17	財務活動の円滑化のため
(株)日伝	4,531	15	取引関係等の円滑化のため
大木ヘルスケアホールディングス(株)	6,250	5	取引関係等の円滑化のため
ウエルシアホールディングス(株)	336	1	取引関係等の円滑化のため

(注) 大木ヘルスケアホールディングス(株)およびウエルシアホールディングス(株)は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、全銘柄について記載しております。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
フジモトHD(株)	179,259	87	取引関係等の円滑化のため
(株)マツモトキヨシホールディングス	13,200	59	取引関係等の円滑化のため
(株)鳥羽洋行	16,291	53	取引関係等の円滑化のため
オカモト(株)	34,000	37	取引関係等の円滑化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	126,561	24	財務活動の円滑化のため
明治ホールディングス(株)	2,694	21	取引関係等の円滑化のため
(株)日伝	9,421	19	取引関係等の円滑化のため
C Bグループマネジメント(株)	5,686	19	取引関係等の円滑化のため
(株)りそなホールディングス	30,000	16	財務活動の円滑化のため
大木ヘルスケアホールディングス(株)	6,250	10	取引関係等の円滑化のため
ウエルシアホールディングス(株)	365	1	取引関係等の円滑化のため

(注) ウエルシアホールディングス(株)は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、全銘柄について記載しております。

#### 八 保有目的が純投資目的である投資株式

区分	前事業年度 (百万円)	当事業年度(百万円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	2	2			

#### 業務を執行した公認会計士の氏名、継続監査年数および所属する監査法人名

業務を執行した公認会計士の氏名	継続監査年数	所属監査法人
山崎 清孝	4年	仰星監査法人
竹村 純也	2年	

監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士7名、会計士試験合格者4名、その他1名であります。

#### 会社と社外取締役との人的関係、資本的関係、その他の利害関係、選任理由及び選任基準

社外取締役の2名は弁護士と元大学教授であります。深沢岳久氏は弁護士としての専門的見地から助言をいただき、社外の独立した立場からの監視により業務執行の適法性や妥当性、会計の適法性等を確保するため選任しており、当社との間において特別な利害関係はありません。また、元大学教授であった辻新六氏は経営学および経営情報学の学識経験者としての専門的見地から、経営全般に関する客観的指導によるコーポレート・ガバナンスの強化、監査体制の充実等を図るために選任しており、当社との間において特別な利害関係はありません。そして、一般株主と利益相反の生じるおそれがないと判断し、独立役員として選任しております。

なお、当社は、社外取締役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針を定めておりませんが、社外取締役には、経営における健全性・透明性・適法性を社外の立場から確保するという機能・役割を期待しておりますので、実際の選任にあたっては、社外での重要な地位や多くの経験、それに基づいた高い見識をお持ちの方で、かつ当社経営陣に対して、しっかりとした意見具申の出来る方を、また、証券取引所が定める社外役員の独立性に関する事項を参考にして、社外取締役の選任基準としております。

#### 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

#### 取締役の定数

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）は12名以内とし、監査等委員である取締役は4名以内とする旨を定款で定めております。

#### 取締役等の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨定款に定めております。

#### 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨および選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	21		21	
連結子会社				
計	21		21	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、仰星監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制の整備のために公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準設定主体等の行う研修へ積極的に参加しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,604,842	1,582,702
受取手形及び売掛金	2,018,183	4 2,209,090
電子記録債権	106,120	4 140,505
商品及び製品	349,438	411,948
仕掛品	645,236	731,504
原材料及び貯蔵品	628,653	716,918
繰延税金資産	69,870	79,575
その他	124,820	58,219
貸倒引当金	1,067	796
流動資産合計	5,546,097	5,929,668
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	2,987,280	2,957,478
減価償却累計額	1,609,659	1,676,728
建物及び構築物(純額)	1,377,620	1,280,749
機械装置及び運搬具	1,960,593	2,034,122
減価償却累計額	1,515,538	1,601,715
機械装置及び運搬具(純額)	445,054	432,407
土地	1,179,632	1,848,498
リース資産	597,836	467,456
減価償却累計額	249,159	170,406
リース資産(純額)	348,677	297,049
建設仮勘定	44,666	132,610
その他	973,943	1,001,007
減価償却累計額	890,688	932,650
その他(純額)	83,255	68,357
有形固定資産合計	1, 2 3,478,906	1, 2 4,059,672
無形固定資産	100,352	90,487
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	305,304	353,385
繰延税金資産	73,036	124,224
その他	9,213	16,871
貸倒引当金	5,271	2,366
投資その他の資産合計	382,283	492,114
固定資産合計	3,961,543	4,642,274
繰延資産	5,241	9,257
資産合計	9,512,882	10,581,200



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	373,479	313,158
電子記録債務	844,045	4 1,093,902
短期借入金	1, 3 1,308,000	1, 3 1,708,000
1年内償還予定の社債	420,000	-
1年内返済予定の長期借入金	1 426,660	1 517,448
リース債務	121,218	84,830
未払法人税等	27,129	115,662
未払消費税等	1,232	70,836
未払費用	218,473	251,393
賞与引当金	123,834	142,071
設備関係支払手形	3,456	-
設備関係電子記録債務	244,105	53,414
その他	54,300	135,767
流動負債合計	4,165,935	4,486,485
<b>固定負債</b>		
社債	200,000	400,000
長期借入金	1 1,569,010	1 2,038,561
リース債務	313,637	369,583
再評価に係る繰延税金負債	2 122,911	2 122,911
退職給付に係る負債	220,061	171,525
その他	62,892	60,892
固定負債合計	2,488,512	3,163,475
負債合計	6,654,447	7,649,960
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	643,099	643,099
資本剰余金	248,362	248,362
利益剰余金	1,663,894	1,692,210
自己株式	34,127	36,072
株主資本合計	2,521,229	2,547,601
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	86,902	116,511
土地再評価差額金	2 278,760	2 278,760
為替換算調整勘定	9,036	11,793
退職給付に係る調整累計額	37,493	23,426
その他の包括利益累計額合計	337,205	383,638
純資産合計	2,858,434	2,931,240
負債純資産合計	9,512,882	10,581,200

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
売上高	7,230,187	7,927,238
売上原価	1, 3 5,347,104	1, 3 5,927,417
売上総利益	1,883,083	1,999,821
販売費及び一般管理費	2, 3 1,333,066	2, 3 1,351,801
営業利益	550,016	648,020
営業外収益		
受取利息及び配当金	6,838	7,326
受取賃貸料	4,532	4,532
受取保険金	94	348
補助金収入	-	6,700
その他	10,494	9,639
営業外収益合計	21,959	28,547
営業外費用		
支払利息	57,662	41,131
賃貸費用	1,787	1,778
シンジケートローン手数料	750	49,884
為替差損	-	15,267
その他	4,511	4,633
営業外費用合計	64,711	112,695
経常利益	507,264	563,872
特別損失		
固定資産除却損	4 749	4 3,386
減損損失	-	5 409,278
特別損失合計	749	412,664
税金等調整前当期純利益	506,515	151,207
法人税、住民税及び事業税	81,792	140,229
法人税等調整額	32,200	80,854
法人税等合計	113,993	59,375
当期純利益	392,521	91,832
非支配株主に帰属する当期純利益	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	392,521	91,832

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
当期純利益	392,521	91,832
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19,088	29,608
為替換算調整勘定	8,539	2,757
退職給付に係る調整額	21,110	14,067
その他の包括利益合計	1 31,659	1 46,433
包括利益	424,180	138,265
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	424,180	138,265
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	643,099	248,362	1,334,907	33,118	2,193,252
当期変動額					
剰余金の配当			63,535		63,535
親会社株主に帰属する当期純利益			392,521		392,521
自己株式の取得				1,009	1,009
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計			328,986	1,009	327,977
当期末残高	643,099	248,362	1,663,894	34,127	2,521,229

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	67,813	278,760	17,576	58,603	305,546	2,498,798
当期変動額						
剰余金の配当						63,535
親会社株主に帰属する当期純利益						392,521
自己株式の取得						1,009
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19,088		8,539	21,110	31,659	31,659
当期変動額合計	19,088		8,539	21,110	31,659	359,636
当期末残高	86,902	278,760	9,036	37,493	337,205	2,858,434

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	643,099	248,362	1,663,894	34,127	2,521,229
当期変動額					
剰余金の配当			63,515		63,515
親会社株主に帰属する当期純利益			91,832		91,832
自己株式の取得				1,944	1,944
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			28,316	1,944	26,371
当期末残高	643,099	248,362	1,692,210	36,072	2,547,601

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	86,902	278,760	9,036	37,493	337,205	2,858,434
当期変動額						
剰余金の配当						63,515
親会社株主に帰属する当期純利益						91,832
自己株式の取得						1,944
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	29,608		2,757	14,067	46,433	46,433
当期変動額合計	29,608		2,757	14,067	46,433	72,805
当期末残高	116,511	278,760	11,793	23,426	383,638	2,931,240

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	506,515	151,207
減価償却費	302,113	392,443
減損損失	-	409,278
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,192	3,175
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	21,513	28,281
受取利息及び受取配当金	6,838	7,326
受取保険金	94	348
支払利息	57,662	41,131
シンジケートローン手数料	750	49,884
社債発行費償却	2,480	2,701
有形固定資産除却損	749	3,386
売上債権の増減額(は増加)	142,848	225,121
たな卸資産の増減額(は増加)	121,207	236,964
未収入金の増減額(は増加)	54,930	55,819
仕入債務の増減額(は減少)	87,082	189,440
未払消費税等の増減額(は減少)	29,354	69,603
その他	13,645	77,530
小計	563,729	941,207
利息及び配当金の受取額	6,838	7,326
保険金の受取額	94	348
利息の支払額	58,565	41,216
法人税等の支払額	208,297	48,836
営業活動によるキャッシュ・フロー	303,799	858,829
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	1,006,127	1,339,422
無形固定資産の取得による支出	11,802	25,339
投資有価証券の取得による支出	4,616	4,713
定期預金の預入による支出	-	77,587
定期預金の払戻による収入	-	97,400
その他	3,430	9,640
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,019,114	1,359,304
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	700,000	400,000
長期借入れによる収入	1,664,000	987,000
長期借入金の返済による支出	268,330	426,660
シンジケートローン手数料の支払による支出	9,000	50,244
社債の発行による収入	200,000	200,000
社債の償還による支出	20,000	420,000
リース債務の返済による支出	91,862	129,197
自己株式の取得による支出	1,009	1,944
配当金の支払額	63,347	63,410
財務活動によるキャッシュ・フロー	710,450	495,543
現金及び現金同等物に係る換算差額	9,837	2,603
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	14,702	2,328
現金及び現金同等物の期首残高	1,272,145	1,257,442
現金及び現金同等物の期末残高	1,257,442	1,255,114

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 2社

不二ライフ(株)、FUJI LATEX SHANGHAI CO.,LTD.

非連結子会社

該当ありません。

2 持分法の適用に関する事項

該当ありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結会社の決算日は、FUJI LATEX SHANGHAI CO.,LTD.を除き、すべて連結決算日と一致しております。

FUJI LATEX SHANGHAI CO.,LTD.の決算日は、12月31日であります。連結財務諸表作成にあたっては、決算日の差異が3カ月以内であるので、子会社の決算財務諸表を使用しております。

なお、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(3年ないし5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とした定額法によっております。

なお、残存価額については、リース契約上に残価保証があるものは当該残価保証額とし、それ以外のものはゼロとしております。

(4) 繰延資産の処理方法

社債発行費

償還期間にわたり、定額法により償却しております。

(5) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対し、支給する賞与の支払いに充てるため、支給見込額のうち会社で定めた支給対象期間中の当連結会計年度負担分を計上しております。

(6) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

小規模企業等における簡便法の採用

連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(7) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(8) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金利息

ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを低減する目的で金利スワップ取引を行っており、投機的な取引は行っておりません。なお、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資を資金の範囲としております。

(10) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。



(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

有形固定資産のうち、次のとおり借入金の担保に供しております。

担保資産の帳簿価額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物	1,313,981千円	1,208,237千円
土地	986,295 "	1,655,161 "
計	2,300,276千円	2,863,398千円

担保付債務

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	1,148,000千円	1,488,000千円
1年内返済予定長期借入金	366,660 "	437,448 "
長期借入金	1,438,010 "	1,903,562 "
計	2,952,670千円	3,829,010千円

2 提出会社は、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、平成14年3月31日に事業用の土地の再評価を行っております。

なお、再評価差額については、土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成11年3月31日公布法律第24号)に基づき、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って計算する方法により算出しております。

再評価を行った年月日

平成14年3月31日

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	93,347千円	92,541千円

3 当社は運転資金の効率的な調達を行うため当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を取引銀行7行(うち当座貸越契約は3行)と締結しております。

連結会計年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	3,350,000千円	3,350,000千円
借入実行残高	1,280,000 "	1,680,000 "
差引額	2,070,000千円	1,670,000千円

なお、上記の内、貸出コミットメント契約3,000,000千円には、以下の財務制限条項が設けられております。

- (1)各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%以上に維持する。
  - (2)各年度の決算期における連結の損益計算書に示される経常損益が2期連続して損失とならないようにする。
- 平成30年3月末現在において、当社は当該財務制限条項に抵触しておりません。

4 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形		105,777千円
電子記録債権		272 "
電子記録債務		314,297 "

(連結損益計算書関係)

1 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上原価	50,086千円	42,682千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
販売促進費	68,940千円	72,844千円
広告宣伝費	9,361 "	6,427 "
給料・賞与	408,672 "	415,657 "
福利厚生費	87,879 "	91,270 "
減価償却費	40,788 "	39,616 "
支払手数料	86,149 "	89,765 "
賞与引当金繰入額	39,930 "	41,609 "
退職給付費用	22,138 "	21,660 "

3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	231,570千円	275,095千円

4 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	60千円	206千円
機械装置及び運搬具	93 "	0 "
その他(工具、器具及び備品)	284 "	179 "
無形固定資産(ソフトウェア)	312 "	
解体撤去費用		3,000 "
計	749千円	3,386千円

5 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額(千円)
栃木工場(栃木県栃木市)	コンドーム製造設備	建物及び構築物、機械装置、リース資産等	409,278

(経緯)

上記の資産グループについては、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであるため、当該資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額409,278千円を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は、建物及び構築物105,414千円、機械装置183,615千円、リース資産84,504千円、その他35,743千円です。

(グルーピングの方法)

事業部門別を基本とし、事業用資産については各事業拠点別、遊休資産については個別物件単位を独立したキャッシュ・フローを生む最小の単位として資産グルーピングを行っております。

(回収可能価額の算定方法等)

当該資産グループの回収可能価額は正味売却価額により算定しております。なお、正味売却価額は主として不動産鑑定評価額によっております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	25,502千円	43,366千円
組替調整額		
税効果調整前	25,502千円	43,366千円
税効果額	6,413 "	13,758 "
その他有価証券評価差額金	19,088千円	29,608千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	8,539千円	2,757千円
組替調整額		
税効果調整前	8,539千円	2,757千円
税効果額		
為替換算調整勘定	8,539千円	2,757千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	4,810千円	6,127千円
組替調整額	25,607 "	14,141 "
税効果調整前	30,417千円	20,269千円
税効果額	9,307 "	6,202 "
退職給付に係る調整額	21,110千円	14,067千円
その他の包括利益合計	31,659千円	46,433千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,861,992			12,861,992

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	154,906	3,949		158,855

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 3,949株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年5月16日 取締役会	普通株式	63,535	5.00	平成28年3月31日	平成28年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年5月15日 取締役会	普通株式	利益剰余金	63,515	5.00	平成29年3月31日	平成29年6月29日

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,861,992		11,575,793	1,286,199

(変動事由の概要)

株式併合による減少 11,575,793株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	158,855	3,576	145,913	16,518

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加(株式併合前) 3,270株

単元未満株式の買取りによる増加(株式併合後) 306株

株式併合による減少 145,913株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年5月15日 取締役会	普通株式	63,515	5.00	平成29年3月31日	平成29年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年5月15日 取締役会	普通株式	利益剰余金	63,484	50.00	平成30年3月31日	平成30年6月28日

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。平成30年3月31日を基準日とする1株当たり配当額は当該株式併合後の金額であります。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	1,604,842千円	1,582,702千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	347,400 "	327,587 "
現金及び現金同等物	1,257,442千円	1,255,114千円

2 重要な非資金取引の内容

ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
リース資産	109,741千円	138,420千円
リース債務	117,830 "	148,756 "

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

・有形固定資産

主として、精密機器事業における生産設備(機械及び装置)及び医療機器事業における生産設備(機械及び装置)であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とした定額法によっております。

なお、残存価額については、リース契約上に残価保証があるものは当該残価保証額とし、それ以外のものはゼロとしております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に Condominium 及び緩衝器の製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な設備資金並びに運転資金については主に銀行借入や社債発行にて調達しております。余剰資金が生じた場合には、基本的に借入金の返済により資金効率を図る方針ですが、一時的には安全性の高い金融資産で運用を行います。デリバティブ取引は、金利および為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的として利用しており投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金並びに電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券につきましては主に取引先企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金並びに電子記録債務は、1年以内の支払期日であります。また、その一部には、原材料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されております。長期借入金、社債及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたもので、償還日は決算日後、最長で16年であります。また、シンジケート・ローン契約68億円には財務制限条項があり、抵触した場合は期限の利益を喪失するリスクがあります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、販売管理規程に従い、営業債権について、各事業部門における営業管理部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の販売管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表わされております。

市場リスク(金利の変動リスク)の管理

当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用する場合があります。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき財務部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を連結売上高の2ヵ月分相当に維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(5) 信用リスクの集中

当期の連結決算日現在における営業債権のうち48.2%が特定の大口顧客に対するものであります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。(注2)を参照ください。)

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,604,842	1,604,842	
(2) 受取手形及び売掛金	2,018,183	2,018,183	
(3) 電子記録債権	106,120	106,120	
(4) 投資有価証券 その他有価証券	216,648	216,648	
資産計	3,945,794	3,945,794	
(1) 支払手形及び買掛金	373,479	373,479	
(2) 電子記録債務	844,045	844,045	
(3) 短期借入金	1,308,000	1,308,000	
(4) 社債	620,000	615,191	4,808
(5) 長期借入金	1,995,670	1,975,082	20,587
(6) リース債務	434,855	442,953	8,098
(7) 設備関係支払手形	3,456	3,456	
(8) 設備関係電子記録債務	244,105	244,105	
負債計	5,823,612	5,806,315	17,296

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,582,702	1,582,702	
(2) 受取手形及び売掛金	2,209,090	2,209,090	
(3) 電子記録債権	140,505	140,505	
(4) 投資有価証券 その他有価証券	264,113	264,113	
資産計	4,196,412	4,196,412	
(1) 支払手形及び買掛金	313,158	313,158	
(2) 電子記録債務	1,093,902	1,093,902	
(3) 短期借入金	1,708,000	1,708,000	
(4) 社債	400,000	391,354	8,645
(5) 長期借入金	2,556,010	2,561,411	5,401
(6) リース債務	454,414	463,334	8,920
(7) 設備関係支払手形			
(8) 設備関係電子記録債務	53,414	53,414	
負債計	6,578,900	6,584,576	5,676

(注 1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金、並びに(3)電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (4) 投資有価証券  
これらの時価については、株式及び債券は取引所の価格によっております。  
また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

- (1) 支払手形及び買掛金、(2)電子記録債務、(3)短期借入金、(7)設備関係支払手形、並びに(8)設備関係電子記録債務  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (4) 社債  
当社の発行する社債の時価は、市場価格のないものであり、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- (5) 長期借入金、並びに(6)リース債務  
時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入またはリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。変動金利による長期借入金の一部は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注 2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

区分	平成29年3月31日	平成30年3月31日
非上場株式(千円)	88,656	89,271

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

(注 3) 満期のある金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内(千円)
現金及び預金	1,600,766
受取手形及び売掛金	2,018,183
電子記録債権	106,120
合計	3,725,069

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内(千円)
現金及び預金	1,580,116
受取手形及び売掛金	2,209,090
電子記録債権	140,505
合計	3,929,713

(注 4) 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,308,000					
社債	420,000				200,000	
長期借入金	426,660	439,460	239,460	239,460	194,460	456,170
リース債務	121,218	60,621	61,803	60,112	78,549	52,550
合計	2,275,878	500,081	301,263	299,572	473,009	508,720



当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,708,000					
社債				200,000	200,000	
長期借入金	517,448	350,646	350,646	305,646	170,646	860,977
リース債務	84,830	86,156	85,007	109,759	46,528	42,132
合計	2,310,278	436,802	435,653	615,405	417,174	903,110

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 株式 その他	216,648	97,969	118,678
小計	216,648	97,969	118,678
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 株式 その他			
小計			
合計	216,648	97,969	118,678

当連結会計年度(平成30年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 株式 その他	264,113	102,068	162,045
小計	264,113	102,068	162,045
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 株式 その他			
小計			
合計	264,113	102,068	162,045

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

該当事項はありません。

(2) 金利関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額等のうち1年超(千円)	時価(千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	961,670	855,010	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額等のうち1年超(千円)	時価(千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	855,010	748,350	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

## (退職給付関係)

## 1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度、退職一時金制度（一部内枠として特定退職金共済に加入しております。）及び確定拠出制度を設けております。なお、退職一時金制度を除き積立型制度であります。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合もあります。

なお、連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

## 2 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	645,568	636,856
勤務費用	46,019	47,637
数理計算上の差異の発生額	992	2,365
退職給付の支払額	55,723	21,858
退職給付債務の期末残高	636,856	665,000

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
年金資産の期首残高	383,596	427,703
期待運用収益	3,835	4,277
数理計算上の差異の発生額	5,802	8,493
事業主からの拠出額	90,192	84,418
退職給付の支払額	55,723	21,858
年金資産の期末残高	427,703	503,034

## (3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	10,042	10,908
退職給付費用	888	682
退職給付の支払額		2,048
その他	22	16
退職給付に係る負債の期末残高	10,908	9,558

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	636,856	665,000
年金資産	427,703	503,034
	209,152	161,966
非積立型制度の退職給付債務	10,908	9,558
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	220,061	171,525
退職給付に係る負債	220,061	171,525
退職給付に係る資産		
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	220,061	171,525

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	46,019	47,637
期待運用収益	3,835	4,277
数理計算上の差異の費用処理額	25,607	14,141
簡便法で計算した退職給付費用	888	682
確定給付制度に係る退職給付費用	68,678	58,184

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
数理計算上の差異	30,417	20,269

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識数理計算上の差異	54,025	33,755

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
一般勘定	59%	57%
債券	23%	24%
株式	17%	18%
その他	1%	1%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
割引率	0.0%	0.0%
長期期待運用収益率	1.0%	1.0%

3 確定拠出制度

当社及び一部の連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度19,941千円、当連結会計年度20,507千円であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日) (千円)	当連結会計年度 (平成30年3月31日) (千円)
(1) 流動資産		
(繰延税金資産)		
未払事業税	5,394	8,710
賞与引当金	38,122	45,996
賞与引当金に係る未払社会保険料	5,670	6,472
たな卸資産評価損	18,683	17,799
その他	1,999	838
繰延税金資産小計	69,870	79,817
評価性引当額		241
繰延税金資産合計	69,870	79,575
(2) 固定資産		
(繰延税金資産)		
退職給付に係る負債	67,171	52,214
役員退職慰労未払金	16,034	16,034
投資有価証券評価損	3,361	3,849
ゴルフ会員権評価損	5,169	5,169
土地の未実現利益の消去	15,722	15,645
減価償却費の償却超過額	46,563	162,080
繰延税金負債(固定)との相殺	37,124	51,846
その他	1,630	1,591
繰延税金資産小計	118,529	204,739
評価性引当額	45,493	80,515
繰延税金資産合計	73,036	124,224
(3) 固定負債		
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	31,775	45,534
在外子会社の留保利益	5,348	6,312
繰延税金資産(固定)との相殺	37,124	51,846
土地再評価に係る繰延税金負債	122,911	122,911
繰延税金負債合計	122,911	122,911

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日) (%)	当連結会計年度 (平成30年3月31日) (%)
法定実効税率	30.9	30.9
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	1.3
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1	1.3
住民税の均等割	0.6	1.7
法人税の特別控除	8.2	17.8
評価性引当額の増減	0.8	23.6
その他	0.3	0.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	22.5	39.3

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に製品販売別の営業部を置き、各営業部は取り扱う製品について国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は営業部を基礎とした製品別セグメントから構成されており、「医療機器事業」及び「精密機器事業」並びに「S P事業」の3つを報告セグメントとしております。

「医療機器事業」は、主に Condom・プローブカバーの製造販売をしております。「精密機器事業」は、緩衝器の製造販売をしております。「S P事業」は、バルーンの製造販売と販売促進用品の販売をしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業の会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸 表計上額 (注) 3
	医療機器 事業	精密機器 事業	S P事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	2,098,208	4,519,003	503,715	7,120,926	109,261	7,230,187		7,230,187
セグメント間 の内部売上高 又は振替高								
計	2,098,208	4,519,003	503,715	7,120,926	109,261	7,230,187		7,230,187
セグメント利益 又は損失( )	21,314	923,326	23,641	925,653	15,457	941,110	391,094	550,016
セグメント資産	2,110,081	4,421,676	287,788	6,819,546	110,401	6,929,947	2,582,935	9,512,882
その他の項目								
減価償却費	75,791	187,442	1,426	264,660	2,690	267,351	34,761	302,113
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	278,661	607,460	1,510	887,633	8,398	896,031	26,404	922,435

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食容器事業を含んでおります。

2 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 391,094千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額2,582,935千円は、主に各報告セグメントに配分していない現預金1,438,366千円と有形固定資産685,507千円が含まれております。有形固定資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社建物であります。

(3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額26,404千円は、報告セグメントに帰属しない全社扱いの設備投資であります。

3 セグメント利益又は損失( )は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸 表計上額 (注) 3
	医療機器 事業	精密機器 事業	S P 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	2,194,404	5,100,891	509,980	7,805,275	121,963	7,927,238		7,927,238
セグメント間 の内部売上高 又は振替高								
計	2,194,404	5,100,891	509,980	7,805,275	121,963	7,927,238		7,927,238
セグメント利益 又は損失( )	95,353	1,130,150	21,940	1,056,737	17,448	1,074,186	426,166	648,020
セグメント資産	2,306,174	5,229,757	307,303	7,843,235	180,388	8,023,624	2,557,576	10,581,200
その他の項目								
減価償却費	91,538	264,122	511	356,172	2,532	358,704	33,738	392,443
減損損失	409,278			409,278		409,278		409,278
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	758,799	575,979	17,907	1,352,687	44,549	1,397,236	25,877	1,423,113

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食容器事業を含んでおります。

2 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失( )の調整額 426,166千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額2,557,576千円は、主に各報告セグメントに配分していない現預金1,412,740千円と有形固定資産693,208千円が含まれております。有形固定資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社建物であります。

(3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額25,877千円は、報告セグメントに帰属しない全社扱いの設備投資であります。

3 セグメント利益又は損失( )は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

## 1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 2 地域ごとの情報

## (1) 売上高

(単位：千円)

日本	ヨーロッパ	アジア	その他	合計
5,869,383	694,616	605,651	60,535	7,230,187

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。



3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ダイドー株式会社	857,430	精密機器事業

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア	ヨーロッパ	その他	合計
6,610,739	641,571	615,304	59,623	7,927,238

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ダイドー株式会社	993,024	精密機器事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	全社・消去	連結 財務諸表 計上額
	医療機器 事業	精密機器 事業	S P事業	計				
減損損失	409,278			409,278		409,278		409,278

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	2,250.18円	2,308.64円
1株当たり当期純利益	308.93円	72.30円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。
3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	392,521	91,832
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	392,521	91,832
普通株式の期中平均株式数(株)	1,270,590	1,269,988

4. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	2,858,434	2,931,240
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	2,858,434	2,931,240
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(株)	1,270,313	1,269,681

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
不二ラテックス㈱ (注)1	第17回無担保社債	平成25年 2月12日	200,000		0.64	無担保社債	平成30年 2月9日
不二ラテックス㈱ (注)2	第18回無担保社債	平成25年 2月12日	100,000		0.47	無担保社債	平成30年 2月9日
不二ラテックス㈱ (注)3	第19回無担保社債	平成25年 2月12日	100,000		0.51	無担保社債	平成30年 2月9日
不二ラテックス㈱ (注)4	第20回無担保社債	平成25年 2月12日	20,000		0.52	無担保社債	平成30年 2月9日
不二ラテックス㈱ (注)5	第21回無担保社債	平成28年 12月30日	200,000	200,000	0.57	無担保社債	平成33年 12月30日
不二ラテックス㈱ (注)6	第22回無担保社債	平成30年 3月26日		200,000	0.47	無担保社債	平成35年 3月24日
合計			620,000	400,000			

- (注) 1 第17回無担保社債は㈱りそな銀行が保証しております。  
 2 第18回無担保社債は㈱みずほ銀行が保証しております。  
 3 第19回無担保社債は㈱三井住友銀行が保証しております。  
 4 第20回無担保社債は㈱三菱東京UFJ銀行が保証しております。  
 5 第21回無担保社債は㈱足利銀行が保証しております。  
 6 第22回無担保社債は㈱りそな銀行が保証しております。  
 7 連結決算日後5年以内における1年ごとの償還予定額の総額は次のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
			200,000	200,000

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,308,000	1,708,000	0.57	
1年以内に返済予定の長期借入金	426,660	517,448	0.90	
1年以内に返済予定のリース債務	121,218	84,830	1.84	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	1,569,010	2,038,561	0.78	平成33年12月21日～ 平成45年10月31日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	313,637	369,583	1.73	平成31年12月9日～ 平成37年3月27日
合計	3,738,525	4,718,424		

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。  
 2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年以内における1年ごとの返済予定額の総額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	350,646	350,646	305,646	170,646
リース債務	86,156	85,007	109,759	46,528

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	2,003,877	3,933,035	5,909,938	7,927,238
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (千円)	159,640	261,026	419,906	151,207
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	112,306	185,212	305,668	91,832
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	88.40	145.82	240.66	72.30

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益又は 1株当たり 四半期純損失 ( ) (円)	88.40	57.40	94.85	168.41

(注) 当社は、平成29年10月1日付けで普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失( )を算定しております。

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,438,366	1,412,740
受取手形	552,944	4 518,400
売掛金	1 1,478,349	1 1,703,223
電子記録債権	106,120	4 140,505
商品及び製品	345,752	406,059
仕掛品	645,236	731,504
原材料及び貯蔵品	628,653	716,918
繰延税金資産	69,126	78,633
未収入金	60,411	4,782
その他	1 61,697	1 49,291
貸倒引当金	1,013	7
流動資産合計	5,385,645	5,762,053
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	1,315,169	1,209,091
構築物	62,451	71,657
機械及び装置	445,054	432,407
工具、器具及び備品	82,097	65,138
土地	1,211,597	1,879,715
リース資産	348,677	297,049
建設仮勘定	44,666	132,610
有形固定資産合計	2 3,509,713	2 4,087,671
<b>無形固定資産</b>		
特許権	4,062	2,812
借地権	856	856
ソフトウェア	88,482	80,665
電話加入権	6,253	5,514
無形固定資産合計	99,655	89,849
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	305,304	353,385
関係会社株式	127,542	127,542
出資金	20	20
繰延税金資産	51,205	110,384
差入保証金	3,430	3,764
その他	2,709	10,126
貸倒引当金	2,801	-
投資その他の資産合計	487,411	605,222
固定資産合計	4,096,780	4,782,742
<b>繰延資産</b>		
社債発行費	5,241	9,257
繰延資産合計	5,241	9,257
資産合計	9,487,667	10,554,054

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	97,172	-
電子記録債務	844,045	4 1,093,902
買掛金	1 273,999	1 316,022
短期借入金	2, 3 1,308,000	2, 3 1,708,000
1年内償還予定の社債	420,000	-
1年内返済予定の長期借入金	2 426,660	2 517,448
リース債務	121,218	84,830
未払金	13,210	88,021
未払費用	1 216,997	249,915
未払法人税等	25,985	109,952
未払消費税等	-	69,459
預り金	24,300	35,957
賞与引当金	122,121	140,485
設備関係支払手形	3,456	-
設備関係電子記録債務	244,105	53,414
その他	1 10,658	1 8,951
<b>流動負債合計</b>	<b>4,151,931</b>	<b>4,476,362</b>
<b>固定負債</b>		
社債	200,000	400,000
長期借入金	2 1,569,010	2 2,038,561
リース債務	313,637	369,583
再評価に係る繰延税金負債	122,911	122,911
退職給付引当金	155,127	128,210
長期預り保証金	7,658	5,658
その他	55,234	55,234
<b>固定負債合計</b>	<b>2,423,578</b>	<b>3,120,160</b>
<b>負債合計</b>	<b>6,575,510</b>	<b>7,596,522</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	643,099	643,099
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	248,362	248,362
<b>資本剰余金合計</b>	<b>248,362</b>	<b>248,362</b>
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	175,375	175,375
<b>その他利益剰余金</b>		
別途積立金	242,000	242,000
繰越利益剰余金	1,271,784	1,289,495
<b>利益剰余金合計</b>	<b>1,689,159</b>	<b>1,706,870</b>
自己株式	34,127	36,072
<b>株主資本合計</b>	<b>2,546,494</b>	<b>2,562,260</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	86,902	116,511
土地再評価差額金	278,760	278,760
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>365,662</b>	<b>395,271</b>
<b>純資産合計</b>	<b>2,912,157</b>	<b>2,957,531</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>9,487,667</b>	<b>10,554,054</b>

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高	1 7,147,102	1 7,828,054
売上原価	1 5,332,956	1 5,907,101
売上総利益	1,814,146	1,920,952
販売費及び一般管理費	1, 2 1,274,408	1, 2 1,299,059
営業利益	539,738	621,893
営業外収益		
受取利息	236	150
受取配当金	6,397	11,726
受取賃貸料	1 7,944	1 7,944
受取保険金	94	348
補助金収入	-	6,700
雑収入	1 9,127	9,625
営業外収益合計	23,800	36,495
営業外費用		
支払利息	54,951	37,961
社債利息	2,710	3,169
社債発行費償却	2,480	2,701
賃貸費用	2,817	2,803
支払保証料	2,014	1,761
為替差損	5,786	14,540
シンジケートローン手数料	750	49,884
雑損失	16	163
営業外費用合計	71,527	112,986
経常利益	492,011	545,402
特別損失		
減損損失	-	410,025
固定資産除却損	632	3,368
特別損失合計	632	413,394
税引前当期純利益	491,378	132,008
法人税、住民税及び事業税	77,215	133,225
法人税等調整額	31,920	82,443
法人税等合計	109,135	50,782
当期純利益	382,243	81,226

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	643,099	248,362	248,362	175,375	242,000	953,076	1,370,451
当期変動額							
剰余金の配当						63,535	63,535
当期純利益						382,243	382,243
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計						318,708	318,708
当期末残高	643,099	248,362	248,362	175,375	242,000	1,271,784	1,689,159

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	33,118	2,228,795	67,813	278,760	346,573	2,575,369
当期変動額						
剰余金の配当		63,535				63,535
当期純利益		382,243				382,243
自己株式の取得	1,009	1,009				1,009
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			19,088		19,088	19,088
当期変動額合計	1,009	317,698	19,088		19,088	336,787
当期末残高	34,127	2,546,494	86,902	278,760	365,662	2,912,157



当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	643,099	248,362	248,362	175,375	242,000	1,271,784	1,689,159
当期変動額							
剰余金の配当						63,515	63,515
当期純利益						81,226	81,226
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計						17,710	17,710
当期末残高	643,099	248,362	248,362	175,375	242,000	1,289,495	1,706,870

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	34,127	2,546,494	86,902	278,760	365,662	2,912,157
当期変動額						
剰余金の配当		63,515				63,515
当期純利益		81,226				81,226
自己株式の取得	1,944	1,944				1,944
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			29,608		29,608	29,608
当期変動額合計	1,944	15,765	29,608		29,608	45,374
当期末残高	36,072	2,562,260	116,511	278,760	395,271	2,957,531

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

#### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

### 2 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

#### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(3年ないし5年)に基づく定額法によっております。

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とした定額法によっております。

なお、残存価額については、リース契約上に残価保証があるものは当該残価保証額とし、それ以外のものはゼロとしております。

### 3 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対し支給する賞与の支払いに充てるため、支給見込額のうち会社で定めた支給対象期間中の当事業年度負担分を計上しております。

#### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

#### 4 ヘッジ会計の方法

##### (1) ヘッジ会計の方法

特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。

##### (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金利

##### (3) ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを低減する目的で金利スワップ取引を行っており、投機的な取引は行っておりません。

なお、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

##### (4) ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

#### 5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

##### (1) 繰延資産の処理方法

社債発行費

償還期間にわたり、定額法により償却しております。

##### (2) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

##### (3) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

##### (4) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	27,098千円	28,468千円
短期金銭債務	2,242 "	2,510 "

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

担保資産

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
建物	1,313,981千円	1,208,237千円
土地	1,004,530 "	1,672,649 "
計	2,318,512千円	2,880,886千円

担保付債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	1,148,000千円	1,488,000千円
1年内返済予定長期借入金	366,660 "	437,448 "
長期借入金	1,438,010 "	1,903,562 "
計	2,952,670千円	3,829,010千円

3 当社は運転資金の効率的な調達を行うため当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を取引銀行7行と(うち当座貸越契約は3行)と締結しております。

事業年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
当座貸越極度額 及び貸出コミットメントの総額	3,350,000千円	3,350,000千円
借入実行残高	1,280,000 "	1,680,000 "
差引額	2,070,000千円	1,670,000千円

なお、上記の内、貸出コミットメント契約3,000,000千円には、以下の財務制限条項が設けられております。

(1)各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%以上に維持する。

(2)各年度の決算期における連結の損益計算書に示される経常損益が2期連続して損失とならないようにする。

平成30年3月末現在において、当社は当該財務制限条項に抵触しておりません。

4 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形		105,777千円
電子記録債権		272 "
電子記録債務		314,297 "

## (損益計算書関係)

## 1 関係会社との取引高

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
関係会社に対する売上高	95,467千円	116,000千円
関係会社からの仕入高	48,135 "	41,660 "
関係会社との営業取引以外の取引高	9,626 "	14,497 "

## 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
給料・賞与	385,480千円	393,222千円
賞与引当金繰入額	38,679 "	40,529 "
減価償却費	40,102 "	38,721 "
貸倒引当金繰入額	3,395 "	3,807 "
おおよその割合		
販売費	74%	75%
一般管理費	26%	25%

## (有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
子会社株式	127,542	127,542
計	127,542	127,542

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日) (千円)	当事業年度 (平成30年3月31日) (千円)
(1) 流動資産		
(繰延税金資産)		
未払事業税	5,369	8,494
賞与引当金	37,735	45,666
賞与引当金に係る未払社会保険料	5,614	6,429
たな卸評価損	18,683	17,799
その他	1,723	243
繰延税金資産合計	69,126	78,633
(2) 固定資産		
(繰延税金資産)		
退職給付引当金	47,468	39,232
役員退職慰労未払金	16,034	16,034
投資有価証券評価損	3,361	3,849
ゴルフ会員権評価損	5,169	5,169
減損損失	8,246	8,475
減価償却費の償却超過額	46,563	162,080
その他	867	867
繰延税金負債(固定)との相殺	31,775	45,534
繰延税金資産小計	95,935	190,175
評価性引当額	44,730	79,791
繰延税金資産合計	51,205	110,384
(3) 固定負債		
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	31,775	45,534
繰延税金資産(固定)との相殺	31,775	45,534
土地再評価に係る繰延税金負債	122,911	122,911
繰延税金負債合計	122,911	122,911

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日) (%)	当事業年度 (平成30年3月31日) (%)
法定実効税率	30.9	30.9
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	1.3
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1	1.4
住民税の均等割	0.6	1.8
法人税の特別控除	8.4	20.4
評価性引当額の増減	0.9	26.8
その他	0.3	0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	22.2	38.5

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	1,315,169	54,721	89,662 (89,455)	71,136	1,209,091	1,415,649
	構築物	62,451	32,710	15,959 (15,959)	7,544	71,657	242,502
	機械及び装置	445,054	324,295	183,615 (183,615)	153,327	432,407	1,601,715
	工具、器具及び備品	82,097	52,968	10,366 (10,204)	59,560	65,138	931,194
	土地	1,211,597 [401,671]	668,866	747 (747)		1,879,715 [401,671]	
	リース資産	348,677	98,420	87,667 (84,504)	62,379	297,049	170,406
	建設仮勘定	44,666	282,107	194,163 (24,178)		132,610	
	計	3,509,713	1,514,089	582,182 (408,665)	353,950	4,087,671	4,361,469
無形固定資産	特許権				1,250	2,812	7,187
	借地権					856	
	ソフトウェア				36,695	80,665	126,980
	電話加入権					5,514	
	計				37,945	89,849	134,167

(注) 1 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	新栃木工場	緩衝器生産用設備	241,617千円
	栃木工場	コンドーム生産用設備	56,308千円
	真岡工場	メディカル製品生産用設備	11,500千円
土地	栃木千塚工場	新工場建設用地	668,866千円
	建設仮勘定	栃木工場	コンドーム生産用設備
建設仮勘定	新栃木工場	緩衝器生産用設備	6,856千円
	栃木千塚工場	新工場建築費用	42,652千円

2 当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	コンドーム生産用設備の減損損失	183,615千円
建設仮勘定	固定資産へ振替	169,985千円
	コンドーム生産用設備に係る減損損失	24,178千円

3 当期減少額の内書は、減損損失の計上額であります。

4 土地の当期首残高及び当期末残高の内書は、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)により行った事業用土地の再評価実施前の帳簿価額との差額であります。

5 無形固定資産の金額が資産総額の1%以下であるため、当期首残高、当期増加額及び当期減少額の記載を省略しております。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	3,814	7	3,814	7
賞与引当金	122,121	140,485	122,121	140,485

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載しております。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 <a href="https://www.fujilatex.co.jp/">https://www.fujilatex.co.jp/</a>
株主に対する特典	ありません。

- (注) 1 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。  
会社法第189条第2項各号に掲げる権利  
会社法第166条第1項の規定による請求をする権利  
株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利
- 2 平成29年6月28日開催の第69回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更しております。



## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第69期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)  
平成29年6月28日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書

事業年度 第69期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)  
平成29年6月28日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

第70期第1四半期 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)  
平成29年8月9日関東財務局長に提出。

第70期第2四半期 (自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)  
平成29年11月10日関東財務局長に提出。

第70期第3四半期 (自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日)  
平成30年2月9日関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく  
臨時報告書

平成29年6月29日関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月27日

不二ラテックス株式会社  
取締役会 御中

仰星監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 山 崎 清 孝

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 竹 村 純 也

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている不二ラテックス株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、不二ラテックス株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、不二ラテックス株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、不二ラテックス株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年6月27日

不二ラテックス株式会社  
取締役会 御中

仰星監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 山 崎 清 孝

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 竹 村 純 也

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている不二ラテックス株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第70期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、不二ラテックス株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。